

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年8月29日
【事業年度】	第23期（自平成27年6月1日至平成28年5月31日）
【会社名】	ジェイコムホールディングス株式会社
【英訳名】	J-COM Holdings Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡本 泰彦
【本店の所在の場所】	大阪市北区角田町8番1号梅田阪急ビルオフィスタワー19階
【電話番号】	06(6364)0006
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部長 我堂 佳世
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区角田町8番1号梅田阪急ビルオフィスタワー19階
【電話番号】	06(6364)0006
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理部長 我堂 佳世
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	平成24年 5月	平成25年 5月	平成26年 5月	平成27年 5月	平成28年 5月
売上高 (千円)	17,518,599	15,196,209	14,951,894	18,067,776	31,844,692
経常利益 (千円)	1,044,883	906,305	374,044	502,726	1,672,297
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	603,211	599,440	259,570	331,256	1,871,295
包括利益 (千円)	596,913	685,767	157,228	541,384	2,136,357
純資産額 (千円)	4,599,310	5,011,334	4,638,083	4,942,354	7,940,414
総資産額 (千円)	6,269,924	6,225,603	8,558,039	9,278,908	22,034,011
1株当たり純資産額 (円)	502.33	546.25	522.56	537.79	718.70
1株当たり当期純利益金額 (円)	65.88	65.34	28.29	36.13	203.56
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	65.76	-	-	36.12	199.02
自己資本比率 (%)	73.4	80.5	56.0	53.1	30.5
自己資本利益率 (%)	13.7	12.5	5.3	6.8	32.1
株価収益率 (倍)	9.7	12.5	25.5	26.4	12.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	333,181	428,522	143,836	977,060	1,644,375
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	128,549	247,771	264,286	418,871	1,673,618
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	227,931	274,033	91,751	299,226	2,948,618
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,340,739	1,743,000	2,074,594	2,333,557	5,252,933
従業員数 (人)	210	209	1,455	1,118	3,380
(外、平均臨時雇用者数)	(28)	(-)	(-)	(-)	(1,942)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。
3. 従業員数は就業人員数を表示しており、ジェイコムスタッフ(総合人材サービスの提供を目的として雇用したスタッフで従業員を除く者)は除いております。
4. 第20期、第21期及び第22期の平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。
5. 第20期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
6. 第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、連結子会社である株式会社サンライズ・ヴィアラ及びジャパンコントラクトフード株式会社が新株予約権を発行しておりますが、両社はいずれも非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
7. 第23期において、株式取得によりサクセスホールディングス株式会社及びその子会社である株式会社サクセスアカデミーを連結の範囲に含めたことから、売上高、総資産額が増加し、自己資本比率が低下しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	平成24年 5月	平成25年 5月	平成26年 5月	平成27年 5月	平成28年 5月
営業収益 (千円)	604,950	640,667	593,960	514,860	848,488
経常利益 (千円)	280,704	353,640	289,290	421,091	400,426
当期純利益 (千円)	224,422	301,627	245,907	358,410	366,874
資本金 (千円)	1,359,682	1,360,285	1,360,285	1,360,285	1,437,547
発行済株式総数 (株)	9,788,000	9,806,000	9,806,000	9,806,000	9,981,000
純資産額 (千円)	3,636,351	3,750,533	3,737,935	3,908,474	4,188,175
総資産額 (千円)	3,693,032	3,871,325	3,918,532	5,018,420	7,973,857
1株当たり純資産額 (円)	397.16	408.82	407.67	425.86	447.98
1株当たり配当額 (円) (うち1株当たり中間配当額)	25.00 (10.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	40.00 (15.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	24.51	32.88	26.81	39.09	39.91
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	24.47	-	-	39.08	39.02
自己資本比率 (%)	98.5	96.9	95.4	77.8	52.5
自己資本利益率 (%)	6.2	8.2	6.6	9.4	9.1
株価収益率 (倍)	26.0	24.9	26.9	24.4	61.4
配当性向 (%)	102.0	91.2	111.9	76.7	100.2
従業員数 (人) (外、平均臨時雇用者数)	22 (-)	20 (-)	14 (-)	16 (-)	27 (-)

(注) 1. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数は就業人員数を表示しております。

3. 平均臨時雇用者数は、従業員数の100分の10未満であるため、記載を省略しております。

4. 第20期及び第21期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第23期の1株当たり配当額には、上場10周年記念配当5円を含んでおります。

6. 第23期における総資産の増加及び自己資本比率の低下は、平成27年7月3日にサクセスホールディングス株式会社の株式を公開買付により取得し、連結子会社化したことによるものです。

## 2【沿革】

年月	事項
平成5年9月	大阪市西区において、代表取締役岡本泰彦がパッケージ旅行の企画事業を目的として、株式会社パワーズインターナショナル（現 ジェイコムホールディングス株式会社）を設立。
平成6年7月	会社名をトラディア株式会社に変更。
平成8年4月	当社代表取締役岡本泰彦が設立した有限会社ジェイ・テレコムにおいて、携帯電話端末の販売に関する代理店契約を締結することにより、マルチメディアサービス事業を開始。
平成8年8月	旅行企画事業を、当社代表取締役岡本泰彦が設立したステップツアーズ株式会社（現 休眠会社）に譲渡。
平成8年11月	会社名をジェイコム株式会社に変更。
平成10年10月	携帯電話の販売業務に関する委託契約を締結し、総合人材サービス事業を開始。
平成11年5月	一般労働者派遣事業の許可を取得。派遣契約による総合人材サービス事業を開始。
平成11年11月	「サービスセンター岩倉店」（現 ドコモショップ宝ヶ池店）開店。
平成12年1月	東海地区における総合人材サービス事業拡大のため、名古屋市東区に名古屋営業所（現 東海支社）を開設。
平成12年4月	中国地区における総合人材サービス事業拡大のため、広島市中区に広島営業所（現 中国支社）を開設。
平成13年7月	J・フォンショップ大正中央（現 ソフトバンク大正中央）開店。
平成15年10月	関東地区における総合人材サービス事業拡大のため、東京都渋谷区に東京支社（現 東京本社）を開設。
平成17年5月	東海支社を現在の名古屋市中区に移転。
平成17年12月	東京証券取引所マザーズに株式を上場。
平成18年1月	本社を大阪市中央区西心斎橋に移転。
平成18年2月	東北地区における総合人材サービス事業拡大のため、仙台市青葉区に東北支社を開設。
平成18年7月	九州地区における総合人材サービス事業拡大のため、福岡市博多区に九州支社を開設。
平成19年2月	東京証券取引所市場第一部に株式を市場変更。
平成19年5月	北海道地区における総合人材サービス事業拡大のため、札幌市中央区に北海道支社を開設。
平成20年1月	東京支社（現 東京本社）を現在の東京都渋谷区渋谷に移転。
平成21年6月	持株会社体制への移行の決定に伴い、ジェイコムスタッフ株式会社（現 連結子会社 ジェイコム株式会社）を設立。
平成21年12月	当社のすべての事業部分を吸収分割によりジェイコム株式会社に承継し、持株会社体制へ移行。会社名をジェイコムホールディングス株式会社に変更。 株式会社サクセスアカデミーの株式を取得。 （株式会社サクセスアカデミーは、平成22年11月に株式移転により設立されたサクセスホールディングス株式会社（現 連結子会社）の完全子会社となりました。）
平成22年6月	ジェイコム株式会社において、東京・大阪の両本社制へ移行。
平成23年9月	株式会社アイ・エフ・シー及び株式会社アスリートグリーン兵庫の株式を取得。
平成23年10月	本社を現在の大阪市北区角田町に移転。
平成25年6月	株式会社エースタッフの株式を取得。
平成25年9月	ジェイコム株式会社を存続会社、株式会社アイ・エフ・シーを消滅会社とする吸収合併を実施。ACAヘルスケア・再編1号投資事業有限責任組合を連結子会社化。
平成25年10月	株式会社サンライズ・ヴィラ及びジャパンコントラクトフード株式会社を連結子会社化。
平成26年8月	ジャパンコントラクトフード株式会社の全株式を譲渡し、連結子会社より除外。
平成27年7月	持分法適用関連会社サクセスホールディングス株式会社の株式を公開買付けにより取得し、連結子会社化。
平成28年4月	株式会社アスリートグリーン兵庫の全株式を譲渡し、関連会社より除外。

### 3【事業の内容】

当社及び当社の関係会社（子会社6社、関連会社1社）においては、主に総合人材サービス事業、保育支援サービス事業、介護関連サービス事業、マルチメディアサービス事業を行っております。なお、保育関連サービス事業につきましては、今後のサービスコンテンツの拡大も見据え、次期より、子育て支援サービス事業へ改称いたします。

また、当連結会計年度より報告セグメントを変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

#### (1) 総合人材サービス事業

連結子会社のジェイコム株式会社及び株式会社エースタッフにおいて、全ての販売プロセスに対する営業支援や、保育・介護業界向けサービスの他、倉庫での軽作業や事務等、あらゆる業界に対する人材サービスを提供しております。

営業支援においては、主にモバイル・アパレル業界向けに、接客、商品説明、契約といった販売応援業務、販売スタッフに対するスーパーバイジング、キャンペーン等の販売促進活動の企画・運営、営業情報の収集・報告といった店舗巡回業務、オペレーションセンターにおける保守やテレマーケティング業務といった販売に関する全ての業務に対し、人材の提供や育成を行っております。特に、モバイル業界においては、光回線や電気等取り扱う商品が多様化していること、MVNOの参入等に伴う顧客獲得活動の激化により料金プランやサービスが複雑化していることから、販売関連業務に携わる人材には、高い提案力・説明力が求められております。このような顧客企業のニーズに対し、独自の研修により育成したスタッフが、ショップ、家電量販店、オペレーションセンター等で、主に消費者に対する販売、保守業務を行っております。また、消費者のニーズを把握し提案・説明ができるスタッフは、どの業界においてもニーズが高く、あらかじめ就業先の商品知識、高度な説明能力が備わるよう研修することで、多様な業界へサービスを提供しております。

保育・介護業界向けサービスにおいては、保育士や介護士、看護師だけでなく、施設長やスーパーバイザー、レクリエーション担当や事務等を含め、保育・介護業界に携わる様々な職種に対する人材サービスを行っております。サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミー、株式会社サンライズ・ヴィラとの人事交流やノウハウの共有により、事業者としての業界知識と教育研修ノウハウを活かした求職者と顧客企業とのマッチング、アフターフォローを行い、保育・介護業界で働く人材を創出しております。

これら業務を行うスタッフに対して、ジェイコム株式会社及び株式会社エースタッフの従業員を専任担当者として配置し、スタッフに対する各種研修や勤怠管理といった品質管理を行うとともに、そこから得た業界知識やマーケティングデータ等を顧客企業に対して迅速かつ正確にフィードバックしております。

当社グループでは、総合人材サービス事業をサービスの特性から、人材派遣サービス、アウトソーシングサービス、人材紹介サービス、採用・教育支援サービスに区分しております。

#### 人材派遣サービス

昭和61年に施行された「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律（以下「労働者派遣法」という）に基づき、厚生労働大臣の許可を受け、「一般労働者派遣事業」を行っております。

「派遣」という働き方を希望されている求職者様を募集し、あらかじめ当社グループにご登録いただきおき、その中から顧客企業の希望する条件とのマッチングを行います。その後、研修を行い、当社グループと期間を定めた雇用契約を締結したうえで、顧客企業へ派遣しております。

#### アウトソーシングサービス

業務の更なる効率化や品質向上を目的として、コンサルティングを行い、企画立案・運営管理・責任者を含めた人員配置等を行うことで業務運営全般を一括受託しております。現在、ショップや販売コーナーの運営・マネジメント業務、オペレーションセンターの運営業務、物流倉庫の運営業務、営業代行、キャンペーンの企画・運営業務等を行っております。

#### 人材紹介サービス

昭和22年に施行された「職業安定法」に基づき、厚生労働大臣の許可を受け、「有料職業紹介」及び「紹介予定派遣」を行っております。新たな求職者様だけでなく、当社グループで勤務中のスタッフについても、本人の希望を把握し求人企業と最適なマッチングを行うことで、新たな業界・職種の仕事も紹介し、ご就業いただいております。特に、保育・介護業界において需要が高くなっております。

### 採用・教育支援サービス

当社グループは、人生のどの段階においても必要とされる企業グループであり続けることを経営目標として掲げており、既にスキルや社会経験のある求職者のみならず、社会経験や希望する業界や職種での経験が乏しい求職者様についても、やる気や潜在能力に注目し、研修の実施や他のサービスでの勤務により、必要な経験やスキルを身に付けていただき、希望する仕事に就業できるよう支援を行っております。また、携帯電話販売代理店の国内最大手である株式会社ティーガイアとの共同出資により設立した研修サービス会社である株式会社キャリアデザイン・アカデミーにおいて、就業前の基礎研修だけでなく、サービス内容や就業先での役割ごとの研修等就業後も細かなフォローを実施することで、定着率の向上とキャリアアップを図っております。

### (2) 保育関連サービス事業

連結子会社のサクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーにおいて、病院・大学・企業等の設置する24時間365日運営等の多様な保育施設の運営の受託を行う受託保育サービス事業、認可保育園・学童クラブ等の公的施設の運営を行う公的保育サービス事業を行っております。

### (3) 介護関連サービス事業

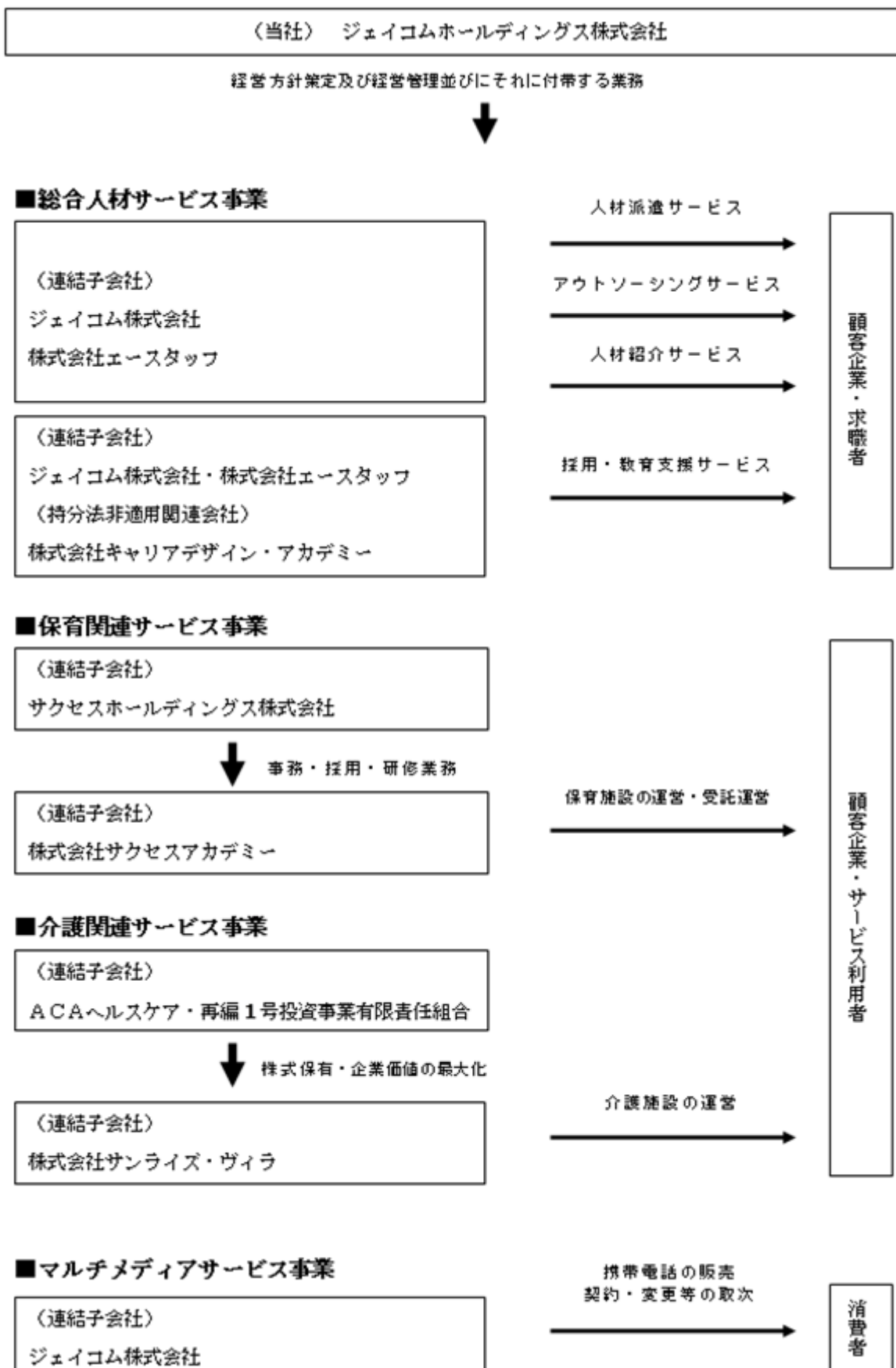
連結子会社の株式会社サンライズ・ヴィラにおいて、24時間看護スタッフ常駐を基本とした有料老人ホーム等の介護施設を運営し、入居者に介護及び看護サービス等を提供しております。

### (4) マルチメディアサービス事業

連結子会社のジェイコム株式会社において、携帯電話端末の販売や加入契約取次代理店事業を行っております。現在、各通信キャリアとM X モバイリング株式会社との三者間契約により、関西地区においてドコモショップ1店舗及びソフトバンクショップ1店舗を運営しております。マルチメディアサービス事業は、携帯電話端末の販売拠点にとどまらず、総合人材サービス事業の品質維持のため、新製品や通信キャリアの販売施策に関する情報収集、スタッフに対する研修や継続的な指導のための資料収集、販売促進活動の効果測定等を行っております。

## 〔事業系統図〕

事業の系統図は、次のとおりであります。



(注) 当社は特定上場会社等であります。特定上場会社等に該当することにより、インサイダー取引規制の重要事実の軽微基準については連結ベースの数値に基づいて判断することになります。

## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ジェイコム株式会社 (注)1、3	大阪市北区	70,000	総合人材サービス事業 マルチメディアサービス 事業	100	経営管理業務の受託 役員の兼任4名 設備の賃貸あり
A C Aヘルスケア・再編 1号投資事業有限責任組 合(注)1	東京都千代田区	1,050,000	介護関連サービス事業	99.0	該当事項なし
株式会社サンライズ・ ヴィラ (注)1、2、3	東京都千代田区	393,750	介護関連サービス事業	67.2 (64.2)	役員の兼任1名 資金の貸付
株式会社エースタッフ	大阪市北区	30,000	総合人材サービス事業 マルチメディアサービス 事業	100	役員の兼任3名
サクセスホールディング ス株式会社 (注)1、4	東京都品川区	285,771	保育関連サービス事業	50.1	経理管理業務の受託 役員の兼任2名 転換社債型新株予約権 付社債の引受
株式会社サクセスアカデ ミー (注)1、2、3	東京都品川区	256,353	保育関連サービス事業	100 (100)	該当事項なし

(注)1. 特定子会社に該当しております。

2. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。

3. ジェイコム株式会社、株式会社サンライズ・ヴィラ及び株式会社サクセスアカデミーについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、当連結会計年度におけるセグメント情報の売上高に占める当該連結子会社の売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。)の割合がそれぞれ90%を超えているため、主要な損益情報等の記載を省略しております。

4. 有価証券報告書を提出しております。



## 5【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

平成28年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
総合人材サービス事業	502( 20)
保育関連サービス事業	2,066( 1,922)
介護関連サービス事業	778( -)
報告セグメント計	3,346( 1,942)
その他	7( -)
全社(共通)	27( -)
合計	3,380( 1,942)

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者及びジェイコムスタッフを除き、常用パートを含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員等を含む。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

3. 従業員数が前連結会計年度末と比べて2,262名増加しておりますが、その主な理由は、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーが連結子会社となったことによるものであります。

## (2) 提出会社の状況

平成28年5月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
27	31.6	3.1	4,554,704

セグメントの名称	従業員数(人)
全社(共通)	27
合計	27

(注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、常用パートを含んでおります。)であります。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済の不確実性が高まっているものの、引き続き、雇用・所得環境の改善が見られております。その一方で、少子高齢化により総人口が減少局面に入中、特に保育・介護、サービス業における人材不足はますます深刻なものとなっており、政府は、働き方の多様化による労働参加率の向上、子育て支援、介護の基盤強化を目的とした「ニッポン一億総活躍プラン」を決定いたしました。

働き方改革や子育て・介護の環境整備が進められる中、全国で総合人材サービスを営む「ジェイコム株式会社」、認可保育園や事業所内保育の受託等300ヶ所以上で保育施設の運営を行う「サクセスホールディングス株式会社」及び「株式会社サクセスアカデミー」、神奈川・東京・埼玉で19ヶ所の有料老人ホームを運営する「株式会社サンライズ・ヴィラ」をグループの主要事業会社とし、人生のどの段階においても必要とされるサービスを提供する当社グループの担う役割はますます大きなものとなっております。

このような状況のもと、当社グループが営む総合人材サービス事業、保育関連サービス事業、介護関連サービス事業におきまして、それぞれの事業会社が事業拡大に邁進しただけでなく、それぞれのノウハウを共有した結果、当連結会計年度における売上高は、31,844,692千円（前期比76.3%増）、営業利益は1,147,747千円（同144.1%増）、経常利益は1,672,297千円（同232.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,871,295千円（同464.9%増）となりました。

各セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### （総合人材サービス事業）

総合人材サービス事業につきましては、人手不足が進み、多くの企業で人材確保が経営課題となる中、ジェイコム株式会社において、求職者様の年齢、国籍、希望する就業条件等を問わず、ご希望に沿った就業先をご紹介できるよう、顧客企業の新規開拓や既存顧客への提案に注力いたしました。また、社会経験や就業を希望する業界・職種での経験が乏しい求職者様においても就業先でご活躍いただけるよう研修機能を強化し、就業人口の増加に努めました。

保育・介護業界向けサービスにおきましては、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミー、株式会社サンライズ・ヴィラと、人事交流だけでなくノウハウの共有を強化することで、マッチング力の強化、定着率の向上を図りました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は15,621,292千円（前期比24.6%増）、営業利益1,630,654千円（同74.5%増）と大幅な増収増益となりました。

#### （保育関連サービス事業）

保育関連サービス事業につきましては、待機児童問題が緊迫化する中、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーにおいて、大学・病院・企業が設置する保育施設を受託運営する受託保育サービスと、認可保育園・学童クラブ等を運営する公的保育サービスの拡大に注力いたしました。成長のボトルネックである保育士の確保については、介護関連サービス同様、ジェイコム株式会社との連携強化により採用数・定着率ともに順調であり、新規開設、サービス品質の強化が進んでおります。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は10,542,954千円（前期は - 千円）、営業利益153,920千円（前期は - 千円）となりました。なお、持分法適用関連会社であったサクセスホールディングス株式会社の株式を公開買付けにより取得し連結子会社化したことに伴い、平成27年7月から平成28年4月までの同社及びその子会社である株式会社サクセスアカデミーの連結業績を反映しております。

#### （介護関連サービス事業）

介護関連サービス事業につきましては、株式会社サンライズ・ヴィラにおいて、ジェイコム株式会社との人事交流やノウハウの共有等により必要人員数が充足し、サービス品質の向上に専念することができた結果、入居率も計画を上回るペースで向上いたしました。

以上の結果、収益力も向上したことから、前第1四半期連結累計期間におけるジャパンコントラクトフード株式会社の連結除外による売上・利益の減少も吸収し、当連結会計年度における売上高は4,956,531千円（前期比9.1%増）、営業損失は64,381千円（前期は313,200千円の営業損失）となりました。

(その他)

マルチメディアサービス事業につきましては、直営携帯電話ショップ2店舗において、引き続き販売強化に努めました。前年同期は法人顧客からのiPad導入案件の一時的な受注があったことから導入時のインセンティブが減少し、当連結会計年度における売上高は711,313千円(前期比27.8%減)、営業利益は23,311千円(前期比92.5%減)となりました。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出や、売上増加に伴う売上債権の増加といったマイナス要因がありましたが、税金等調整前当期純利益の計上、入居者増加に伴う受入入居保証金の増加といったプラス要因があったことにより、前期末に比べ2,919,375千円増加し、当連結会計年度末は5,252,933千円となりました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は1,644,375千円(前期比68.3%増)となりました。この主な内容は、税金等調整前当期純利益の計上2,671,071千円、段階取得に係る差益1,230,845千円の計上、法人税等の支払額769,168千円です。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は1,673,618千円(前期使用した資金は418,871千円)となりました。この主な内容は、平成27年7月3日付で実施いたしましたサクセスホールディングス株式会社の金融商品取引法に基づく公開買付けによる連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出649,291千円、有形固定資産の取得による支出969,327千円です。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得た資金は2,948,618千円(前期使用した資金は299,226千円)となりました。この主な内容は、平成27年7月3日付で実施いたしましたサクセスホールディングス株式会社の金融商品取引法に基づく公開買付けによる関係会社株式の取得等に伴う長期借入による収入3,450,018千円、配当金の支払いによる支出275,699千円です。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当社グループは生産活動を行っていないため、該当事項はありません。

### (2) 受注状況

当社グループは受注生産を行っていないため、該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	区分	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日) (千円)	前期比(%)
総合人材サービス事業	西日本地区	6,106,570	113.5
	東海地区	1,753,225	136.2
	東日本地区	7,761,495	132.1
小計		15,621,292	124.6
保育関連サービス事業		10,542,954	-
介護関連サービス事業		4,956,531	109.1
その他		723,913	73.5
合計		31,844,692	176.3

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 上記のうち、西日本地区には近畿以西を、東海地区には東海地方を、東日本地区には関東以東をそれぞれ記載しております。

3. 保育関連サービス事業については、当連結会計年度において新設したため、前期比は記載しておりません。

### 3【対処すべき課題】

#### (1) コンプライアンスへの取り組み

人材サービス企業は、労働者派遣法や職業安定法に基づく認可を受けるだけでなく、顧客企業・求職者様の両者から大きな信頼を得て選ばれる会社である必要性が高まっております。また、保育・介護は許認可事業であるため、児童福祉法や老人福祉法といった関連法令の遵守が事業継続の大前提であり、コンプライアンスの徹底が求められる中で、当社グループでは、適宜改正される法令に対応すべく、諸規程等のルールや社内体制を整備・徹底し、適正に業務を遂行してまいります。

#### (2) 事業領域の拡大

当社グループは、大部分を総合人材サービス事業が占めておりましたが、株式会社サンライズ・ヴィラの株式取得による介護関連サービス事業の開始、サクセスホールディングス株式会社の連結子会社化による保育関連サービス事業の深掘りに引き続き、特定の事業に偏ることによるリスクの回避及び今後の事業拡大のため、今後も高成長、高収益を継続し、企業価値をさらに高めるべく、これまで実施してきた事業の拡大を図るとともに、新たな成長分野への拡大のため、M & A や戦略的な事業提携も視野に入れた効率的な経営・管理を強化してまいります。

#### (3) スタッフのキャリアアップ支援の充実

平成27年9月30日施行の改正労働者派遣法においては、派遣元事業主は、雇用している派遣労働者のキャリアアップを図るため、段階的かつ体系的な教育訓練、希望者に対するキャリア・コンサルティングを実施することが義務付けられております。

当社グループにおいても、派遣事業の適正な運営のために、日々の営業活動において十分に取り組んでまいりますが、特に正社員としての就業を希望する派遣労働者の能力開発及びキャリア形成のため、適切なアドバイスを行い支援することについて、更なる充実に努めてまいります。

#### (4) 個人情報の保護

当社グループはサービス利用者の個人情報を有しており、また、スタッフの就業先においても個人情報を取扱うことが多いことから、個人情報の管理は重要なものであると認識しております。当社グループでは、従業員、スタッフ全員に情報漏洩に関する意識を徹底し、業務に携わる前には必ず個人情報の適正利用に関する指導を行う等、今後も重要課題として個人情報の適正な保護管理に取り組んでまいります。

#### 4【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、当社グループとしては必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断上重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から、以下に開示しております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社が判断したものであります。

当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識したうえで、その発生の予防または回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載内容も併せて慎重に検討したうえで行われる必要があると考えております。また、以下の記載は本株式への投資に関連するリスクをすべて網羅するものではありませんので、この点にご留意下さい。

##### (1) 労働者派遣法について

総合人材サービス事業は、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律」（以下、「労働者派遣法」という。）に基づく厚生労働大臣の「一般労働者派遣事業」の許可を取得しており、労働者派遣法に基づく規制を受けております。

当社グループが労働者派遣法第14条のいずれかに該当するときは、厚生労働大臣は一般労働者派遣事業の許可を取り消すことができる旨が定められておりますが、現時点において、当社は許可の取消しに該当する事実はないと認識しております。しかしながら、将来、何らかの理由により許可の取消し等があった場合には、当社グループの主要な事業活動に支障をきたすとともに業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

##### (2) 保育に関する国の方針

平成12年に認可保育園の運営主体に株式会社も認められることになり、当社グループの保育関連サービス事業においても、認可保育園の運営を事業として行っております。今後、国の方針が変わり、株式会社による認可保育園の開設や既存の公立保育所の民営化が認められなくなった場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 介護保険について

介護関連サービス事業におきましては、老人福祉法、介護保険法等に基づく規制を受けております。当社グループは、関連する法律に基づき適正にサービスを提供しておりますが、今後法律の改正及び介護報酬額の改定等があり、サービス内容及び料金体系の見直しが必要となった場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

##### (4) 法令遵守に関するリスクについて

当社グループでは、従業員、スタッフに対する入社時及び継続的なコンプライアンス研修の実施、より充実した内部管理体制の構築など、法令を遵守するための体制を整え、社会的責任を果たすべく努力を重ねております。しかしながら、これらの教育研修及び内部管理体制の整備は、従業員、スタッフの違法行為をすべて排除することを保証するものではありません。法令遵守体制の強化については今後も継続して取り組んでまいります。従業員、スタッフによる重大な過失、不正、違法行為等が生じた場合には、当社グループに対する訴訟や損害賠償請求、信用の低下といった金銭的・社会的な影響が予想され、これにより業績に影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 個人情報の管理

当社グループは、サービス利用者の個人情報を有しており、また、スタッフの就業先においても、個人情報を扱う業種が多く、個人情報の管理は重要なものであると認識しております。当社グループでは、従業員、スタッフ全員に情報漏洩に関する意識を徹底し、業務に携わる前には必ず個人情報の適正利用に関する指導を行うとともに、継続的に研修を行っております。当社グループでは個人情報の保護管理体制を整備しており、今後も重要課題として個人情報の保護管理に取り組んでまいります。また、個人情報漏洩にかかる金銭的なリスクを回避するため、個人情報漏洩保険に加入しております。しかし、何らかの理由により個人情報が外部に漏洩するような事態が生じた場合には、当社グループに対する損害賠償請求や信用の低下といった金銭的・社会的な影響が予想され、これにより業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (6) 優秀なスタッフの確保

総合人材サービス事業、子育て支援サービス、介護関連サービス事業と当社グループのどの事業においても、成長意欲のある優秀なスタッフを確保することが必要不可欠であります。よって、今後、当社グループが成長していくためにも、スタッフの確保は重要な事項であります。

優秀なスタッフを確保するためには、採用活動と研修活動がともに重要であると認識しております。採用活動においては、独自の求人サイトの構築等求職者が応募しやすい環境を整えており、研修活動においては、採用したスタッフについて、社会で活躍するにあたり必要なマナー等の基礎知識、スタッフの従事する業務に対する知識の向上、就業に際するスタッフ満足度の向上に努めております。

しかし、このような諸施策を実施するにもかかわらず、当社グループの計画どおりに優秀なスタッフの確保ができないことも想定されます。この場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (7) 総合人材サービス業界におけるサービス提供業界の構成比について

当社グループの総合人材サービス事業のサービス提供業界について、モバイル業界が高くなっております。これは、業界特化型で事業を展開することにより、当社グループが他の人材サービス企業との差別化を図ってきたことによります。

総合人材サービス事業における当連結会計年度の業界別売上高は、次のとおりであります。

業 界	売上高(千円)	構成比(%)
モバイル業界向け	12,313,281	78.8
その他業界向け	3,308,010	21.2
合 計	15,621,292	100.0

現在、アパレル、保育・介護、コールセンター、物流、と積極的な事業展開を行っており、総合人材サービス事業全体に対するモバイル業界向けの割合は下がってきておりますが、今後も需要が高水準で推移する業界であると考えており、売上高を伸ばしていく方針であるため、モバイル業界の動向によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (8) 社会保険について

当社グループのスタッフにおいても、一定の条件を満たした場合は社会保険(厚生年金及び健康保険)への加入が義務付けられております。当社グループでは、既に加入義務者全員が社会保険に加入しておりますが、社会保険加入要件について、今後加入対象者が短時間労働者まで広がった場合、スタッフの社会保険加入人員数が増加します。

また、社会保険のうち厚生年金保険料の料率は、平成29年まで段階的に引上げられることから、当社グループが負担する厚生年金保険料は毎年0.177%ずつ増加していきます。これら、社会保険料が増加することにより、今後、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (9) 事業投資について

当社グループは、成長を加速するための有効な手段として同業または関連する分野を中心に企業または事業の買収を積極的に検討してまいります。

これらに伴って多額の資金需要が発生する可能性があるほか、のれんの償却等により業績に影響を受ける可能性があります。また、これらの事業投資が必ずしも見込どおりに当社グループの業績に貢献したり、シナジー効果を生むとは限らず、買収した企業の収益性が著しく低下した場合、のれんの減損が生じるなど当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

### 直営店舗の運営に関する契約

契約会社名	相手方の名称	契約内容	契約期間
ジェイコムホールディングス株式会社 (当社)	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ、 M X モバイリング株式会社	ドコモショップの運営に 関する業務再委託契約	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで 以後1年ごと自動更新
	ソフトバンクモバイル株式会社、 M X モバイリング株式会社	ソフトバンクショップ運 営に関する契約	平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで 以後1年ごと自動更新

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成しております。この連結財務諸表の作成にあたって、過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる要因に基づき、貸倒引当金、賞与引当金、繰延税金資産等に関する見積り及び判断を行っているものがあります。これら見積り等については、継続して見直しを行っておりますが、見積り特有の不確実性を伴うため、実際の結果はこれら見積りと異なる場合があります。

### (2) 財政状態の分析

当連結会計年度末における総資産は22,034,011千円（前期比12,755,103千円増）、純資産は7,940,414千円（前期比2,998,059千円増）、自己資本比率は30.5%（前期比22.6ポイント減）となりました。

#### （流動資産）

当連結会計年度末における流動資産の残高は9,626,168千円（前期比4,890,724千円増）となりました。これは、平成27年7月3日に連結子会社となったこと等に伴う現金及び預金の増加2,839,375千円、受取手形及び売掛金の増加1,260,011千円等があったことによります。

#### （固定資産）

当連結会計年度末における固定資産の残高は12,407,842千円（前期比7,864,378千円増）となりました。これは、平成27年7月3日付で実施いたしましたサクセスホールディングス株式会社の金融商品取引法に基づく公開買付けにより連結子会社となったこと等に伴う有形固定資産の増加4,802,289千円、のれんの増加2,916,771千円等があったことによります。

#### （流動負債）

当連結会計年度末における流動負債の残高は6,342,328千円（前期比3,912,391千円増）となりました。これは、平成27年7月3日付で実施いたしましたサクセスホールディングス株式会社の金融商品取引法に基づく公開買付けによる調達等に伴う短期借入金の増加800,000千円、1年内返済予定の長期借入金の増加1,207,611千円、未払金の増加754,524千円、賞与引当金の増加275,678千円、未払法人税等の増加245,479千円等があったことによります。

#### （固定負債）

当連結会計年度末における固定負債の残高は7,751,268千円（前期比5,844,652千円増）となりました。これは、平成27年7月3日付で実施いたしましたサクセスホールディングス株式会社の金融商品取引法に基づく公開買付けにより連結子会社となったこと等に伴う長期借入金の増加4,760,891千円、リース債務の増加575,371千円、資産除去債務の増加218,753千円等があったことによります。

#### （純資産）

当連結会計年度末における純資産の残高は7,940,414千円（前期比2,998,059千円増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益の計上1,871,295千円、配当金の支払275,068千円、平成27年7月3日付で実施いたしましたサクセスホールディングス株式会社の金融商品取引法に基づく公開買付けにより連結子会社となったこと等に伴う非支配株主持分の増加1,215,029千円等があったことによります。



## (3) キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析は、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」の項目をご参照下さい。

## (4) 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は31,844,692千円（前期比13,776,916千円増）、売上総利益は5,344,800千円（前期比2,458,302千円増）、販売費及び一般管理費は4,197,053千円（前期比1,780,716千円増）、営業利益は1,147,747千円（前期比677,586千円増）、経常利益は1,672,297千円（前期比1,169,570千円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,871,295千円（前期比1,540,038千円増）となりました。

## （売上高）

売上高の詳細については、「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1) 業績」の中のセグメントの業績に記載のとおりです。

## （売上総利益）

当連結会計年度の売上原価は26,499,891千円（前期比74.6%増）、売上原価率は0.8ポイント改善し83.2%となりました。これは、総合人材サービス事業において高付加価値のサービスに対する需要が高まったこと、介護関連サービス事業において、介護士が充足した結果サービス品質が向上し入居率が改善したことによるものであります。

この結果、売上総利益は5,344,800千円（前期比85.2%増）となりました。

## （営業利益）

販売費及び一般管理費は、新規連結子会社の増加に伴うのれんの償却等の費用増等により、4,197,053千円（前期比73.7%増）となりましたが、前期において先行投資していた人員等の体制強化が売上拡大に寄与したことにより、売上高販売管理費率は前期比0.2ポイント改善し13.2%となりました。

この結果、営業利益は1,147,747千円（前期比144.1%増）となりました。

## （経常利益）

営業外収益は、持分法による投資利益や保育関連サービス事業における設備補助金収入等により602,358千円となりました。一方、営業外費用は、支払利息等により77,807千円となりました。

この結果、経常利益は1,672,297千円（前期比232.6%増）となりました。

## （親会社株主に帰属する当期純利益）

特別利益は、持分法適用関連会社であったサクセスホールディングス株式会社を当連結会計年度に連結子会社にしたことに伴い発生した段階取得に係る差益1,230,845千円等により1,263,275千円となりました。一方、特別損失は、連結子会社にて退任した役員に対する役員退職慰労金209,000千円等により264,501千円となりました。

この結果、税金等調整前当期純利益は2,671,071千円（前期比216.3%増）となりました。

また、税金費用が567,620千円、非支配株主に帰属する当期純利益が232,154千円発生し、親会社株主に帰属する当期純利益は1,871,295千円（前期比464.9%増）となりました。

## (5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループは、今後も引き続き総合人材サービス事業、保育関連サービス事業、介護関連サービス事業の積極的な拡大を行ってまいります。どの事業におきましても、事業拡大のためには優秀なスタッフをより多く確保することが重要であることから、今後も採用体制の強化を図るとともに、教育研修体制をさらに充実させ、多くの優秀なスタッフの育成を図ってまいります。

また、人材サービス業界においては労働者派遣法、保育業界については児童福祉法、介護業界においては老人福祉法、介護保険法等、その他関連法令の改正は会社経営に大きく影響を与える可能性があります。当社グループでは、求職者や顧客から必要とされるサービスを提供し続けられるよう情報を収集し、迅速に対応してまいります。

#### (6) 経営戦略の現状と見通し

海外経済の先行きが不透明ではあるものの、少子高齢化に立ち向かう「ニッポン一億総活躍プラン」の発表もあり、保育・介護職の待遇改善、事業所内保育所に対する助成金の拡大が決定、外国人労働者の受入れも検討される等働き方改革、子育て・介護の環境整備が早急に進められるものと思われま

す。当社グループでは、これまで、保育・人材・介護と、人生のどの段階においても「必要とされる」企業グループとして事業拡大に邁進してまいりましたが、近年の我が国の状況を鑑み、人生のどの段階においても「なくてはならない」企業グループを目指してまいります。

総合人材サービス事業におきましては、労働供給が減少傾向にある中、ジェイコム株式会社を中心とし、若年層の社会進出支援から事業を開始した経験を活かし「働く」喜びを伝え、事業を開始してから多種多様な顧客企業へサービスを提供してきた知識を活かし求職者様が希望する多様な働き方を実現し、モバイル、アパレル、保育・介護、コールセンター、物流と、業界特化型で事業を展開してきたノウハウを活かし求職者様に就業先でご活躍いただくために必要な研修を実施することで、潜在的な求職者様も含め就業人口の増加に努めてまいります。また、就業後のアフターフォローだけでなく、顧客企業において働きやすい環境を作るためのご提案もさせていただくことで、定着率の向上も図ってまいります。

保育・介護業界向けサービスにつきましては、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミー、株式会社サンライズ・ヴィラの施設運営事業者としてのノウハウを活かし、独自の保育士・介護士の採用・研修機能を構築してまいります。

また、外国人労働者の受入れに対する法整備の可能性も視野に入れ、現行法上で就業いただける海外人材の活用も開始しており、特に、介護業界における人材確保策として準備を進めております。

保育関連サービス事業におきましては、女性活躍推進法の制定や待機児童問題の深刻化により、当社グループで提供できるサービスも広がると考えられることから、次期より「子育て支援サービス事業」と改称いたします。引き続き、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーを中心に、事業所内保育・認可保育園・学童クラブ等の新規開設の強化、サービスの更なる向上による収益力改善に邁進してまいります。

介護関連サービス事業におきましては、株式会社サンライズ・ヴィラにおいて、引き続き、サービス品質を向上、他社との差別化を明確にすることで入居率を90%以上の高水準で維持するとともに、コスト削減にも注力し、収益力を強化してまいります。

マルチメディアサービス事業におきましては、引き続き総合人材サービス事業とのシナジー効果を意識しつつ、販売強化に努めてまいります。

#### (7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループにおいて、総合人材サービス事業は労働者派遣法、保育関連サービス事業は児童福祉法、介護関連サービス事業は老人福祉法、介護保険法に基づく規制を受けていることから、法改正に都度対応し、法令遵守を意識した行動を心がけております。

また、当社グループはスタッフ及び採用・教育支援サービス利用者、児童及び保護者、入居者等の個人情報を有しており、当社グループのスタッフの就業先においても個人情報を取扱うことが多いことから、個人情報の管理は重要なものであると認識しております。

当社グループは、今後もコンプライアンス体制の充実を図り、より充実した内部管理体制の構築等法令を遵守するための体制を整え、ジェイコムスタッフ、入居者、得意先、投資家等様々なステークホルダーに対して信頼される会社であり続けるよう努力してまいります。

また、人生のどの段階においてもなくてはならない企業グループを目指し、さらに飛躍するためには、事業領域の拡大が必須であり、今後持株会社体制を活かし、M & A や事業提携等成長分野や新規事業への積極的な投資を実施してまいります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度におきまして、保育関連サービス事業の拡大のための新規施設の出店を進め、1,056,492千円の設備投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

平成28年5月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (大阪市北区)	全社	事務所	11,396	1,382	47,542	60,320	17
東京本社 (東京都渋谷区)	全社	事務所	1,877	94	-	1,971	10

(注) 帳簿価額のうち「その他」は車両運搬具及びソフトウェアであります。なお、金額には消費税等は含んでおりません。

## (2) 国内子会社

平成28年5月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)	リース資産	その他 (千円)	合計 (千円)	
ジェイコム 株式会社	大阪本社 (大阪市北区)	総合人材 サービス事業	事務所	6,582	74	-	-	6,656	144 (4)
ジェイコム 株式会社	東京本社 (東京都渋谷区)	総合人材 サービス事業	事務所	13,094	3,635	-	10	16,740	184 (2)
ジェイコム 株式会社	横浜支社他10支 社	総合人材 サービス事業	事務所	19,705	5,648	-	3,824	29,177	171 (4)
ジェイコム 株式会社	ドコモショップ 宝ヶ池店 (京都市左京 区)	その他	店舗	15,667	1,027	-	-	16,695	5 (7)
ジェイコム 株式会社	ソフトバンク 大正中央 (大阪市大正 区)	その他	店舗	764	0	-	-	764	2 (2)
サクセスホー ルディングス 株式会社	本社事務所 (東京都品川 区)	保育関連サー ビス事業	事務所	20,648	-	-	54,340	74,989	67 (7)
サクセスアカ デミー株式会 社	にじいろ保育園 鹿島田ほか認可 保育園29園(神 奈川県)	保育関連サー ビス事業	保育設備	1,571,105	-	238,115	35,077	1,844,298	549 (210)
サクセスアカ デミー株式会 社	にじいろ保育園 之江ほか認可保 育園29園(東京 都)	保育関連サー ビス事業	保育設備	1,963,060	-	358,272	64,515	2,385,848	592 (158)
株式会社 サンライズ・ ヴィラ	東京事務所 (東京都千代田 区)	介護関連サー ビス事業	事務所	2,290	1,837	-	38,977	43,105	16 (-)
株式会社 サンライズ・ ヴィラ	フェリエ ドゥ横 浜鴨井他介護施 設27事業所	介護関連サー ビス事業	施設	504,856	35,711	-	510	541,078	762 (-)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は車両運搬具、水道施設利用権、商標権及びソフトウェアであります。なお、金額には消費税等は含んでおりません。

2. ジェイコム株式会社の設備はすべて提出会社から賃借しているものであります。

3. ジェイコム株式会社の事業所には、当該事業所の管轄するサテライトオフィスを含んでおります。

4. 従業員数の( )は、臨時雇用者数を外書してあります。

## 4. 上記の他、主要な賃借している設備として、以下のものがあります。

平成28年5月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	従業員数 (人)	土地面積 (千㎡)	年間賃借料 (千円)	リース契約 残高 (千円)
ジェイコム株式会社	本社及び支社 (大阪市北区 他16ヶ所)	全社及び総合人材サービス事業	事務所設備 (賃借)	499 (10)	-	141,060	-
ジェイコム株式会社	直営ショップ (京都市左京区 他1ヶ所)	その他	店舗設備 (賃借)	7 (9)	-	17,970	-
株式会社サクセスアカデミー	にじいる保育園鹿島 田ほか認可保育園27 園(神奈川県)	保育関連サービス事業	保育設備 (賃借)	493 (191)	-	87,372	1,050,772
株式会社サクセスアカデミー	にじいる保育園一之 江ほか認可保育園28 園(東京都)	保育関連サービス事業	保育設備 (賃借)	510 (140)	-	305,666	3,791,265
株式会社サンライズ・ヴィラ	本社及び事務所 (東京都千代田区)	介護関連サービス事業	事務所設備 (賃借)	16 (-)	-	8,560	-
株式会社サンライズ・ヴィラ	介護施設 (横浜市保土ヶ谷区 他27ヶ所)	介護関連サービス事業	介護施設 設備 (賃借)	762 (-)	-	879,334	-

## 3【設備の新設、除却等の計画】

## (1) 重要な設備の新設

当社グループの設備投資は、保育関連サービス事業の保育設備のものであります。

保育関連サービス事業の計画については、許認可が得られる時期等の特定が難しく、計画を適切に明記できないため、有価証券報告書提出日現在において許認可の内定を得られた保育所のみを開示しております。

提出会社

該当事項はありません。

子会社(株式会社サクセスアカデミー)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了 予定年月		完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
認可保育園 (東京都2園)	保育関連サービ ス事業	保育設備	287,152	258,739	自己資金及び 借入金	2015年 1月	2016年 6月	70名
認可保育園 (東京都6園)	保育関連サービ ス事業	保育設備	1,130,110	20,000	自己資金及び 借入金	2016年 10月	2017年 4月	386名
認可保育園 (神奈川県1園)	保育関連サービ ス事業	保育設備	143,620	12,000	自己資金及び 借入金	2016年 10月	2017年 4月	80名

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

## (2) 重要な設備の除却

重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成28年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,981,000	9,981,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株 (注)
計	9,981,000	9,981,000	-	-

(注) 1. 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

2. 「提出日現在発行数」欄には、平成28年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

## (2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

## 第2回新株予約権(平成27年4月1日取締役会決議)

	事業年度末現在 (平成28年5月31日)	提出日の前月末現在 (平成28年7月31日)
新株予約権の数(個)	50	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	5,000	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	875	同左
新株予約権の行使期間	自 平成27年5月1日 至 平成37年4月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 875 資本組入額 438	同左
新株予約権の行使の条件	(注) 1	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 2	同左

(注) 1. (1) 割当日から平成32年4月30日までの間に、下記(ア)(イ)の条件に抵触しない限り、新株予約権者は自由に権利を行使することができる。また、平成32年5月1日から行使期間の終期までの期間については、新株予約権者の意思での権利行使はできないものとする。ただし、下記(ア)(イ)のいずれかの条件に抵触した場合、抵触した条件が優先され、抵触しなかった条件は消滅するものとする。

(ア) 割当日から平成32年4月30日までの間で、東京証券取引所本則市場における当社株式の普通取引の終値が一度でも行使価額の200%を上回ること。

上記条件に抵触した場合、新株予約権者は残存する全ての新株予約権について、その全てを行使価額にて行使しなければならない。

(イ)平成27年4月30日以降から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間で、東京証券取引所本則市場における当社株式の普通取引の終値が一度でも行使価額の60%を下回ること。

上記条件に抵触した場合、当該時点以降、当社は残存する全ての新株予約権を行使価額の60%で行使させることができるとともに、新株予約権者は自らの意思で権利行使できない。ただし、当社が行使を指示することができるのは、当該時点以降、行使期間の終期までの場合において、東京証券取引所本則市場における当社株式の普通取引の終値が行使価額の60%を下回っている場合に限る。

(2)下記(a)～(d)に掲げる場合に該当するときには、前記(ア)(イ)の場合であっても、新株予約権者はその義務を免れる。

(a) 当社の開示情報に重大な虚偽が含まれることが判明した場合

(b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合

(c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合

(d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合

(3) 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。

(4) 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。

(5) 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授権株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。

(6) 各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

2. 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

(1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

(2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

(3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件を勘案のうえ、下記に準じて決定する。

本新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は、当社普通株式100株とする。

なお、付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割または資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、下記で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、1株あたりの払込金額(以下、「行使価額」という。)に、付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、金875円とする。

なお、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

調整後行使価額 = 調整前行使価額 ×  $\frac{1}{\text{分割(または併合)の比率}}$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合（新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。）、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

平成27年5月1日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から平成37年4月30日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

下記に準じて決定する。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から、上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) その他新株予約権の行使の条件

上記(注)1. に準じて決定する。

(9) 新株予約権の取得事由及び条件

下記に準じて決定する。

当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認（株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議）がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。

新株予約権者が権利行使をする前に、上記(注)1. に定める規定により本新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

(10) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

第3回新株予約権（平成27年4月1日取締役会決議）

	事業年度末現在 (平成28年5月31日)	提出日の前月末現在 (平成28年7月31日)
新株予約権の数(個)	2,746	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	274,600	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	875	同左
新株予約権の行使期間	自 平成27年5月1日 至 平成34年4月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 875 資本組入額 438	同左
新株予約権の行使の条件	(注)1	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による本新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-



	事業年度末現在 (平成28年5月31日)	提出日の前月末現在 (平成28年7月31日)
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 2	同左

- (注) 1. (1) 新株予約権者は、下記(a)または(b)に掲げる経常利益(当社の有価証券報告書に記載される連結損益計算書(連結損益計算書を作成していない場合、損益計算書)における経常利益をいい、以下同様とする。)が各金額を超過した場合、各新株予約権者に割り当てられた新株予約権のうち、それぞれ定められた割合の個数を当該経常利益の水準を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月1日から権利行使期間の末日までに行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- (a) 平成28年5月期の経常利益が8億円を超過した場合  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の2分の1
- (b) 平成29年5月期の経常利益が12億円を超過した場合  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の2分の1
- (2) 上記(1)における経常利益の判定において、適用される会計基準の変更等により参照すべき経常利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標を取締役会にて定めるものとする。
- (3) 本新株予約権者は、上記(1)の条件が満たされた場合に、本新株予約権を、次の各号に掲げる期間において、既に行使した本新株予約権を含めて当該各号に掲げる割合を限度として行使することができる。この場合において、かかる割合に基づき算出される行使可能な本新株予約権の個数につき1個未満の端数が生ずる場合には、かかる端数を切り捨てた個数の本新株予約権についてのみ行使することができるものとする。
- (a) 平成28年9月1日から平成29年8月31日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の4分の1
- (b) 平成29年9月1日から平成30年8月31日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の2分の1
- (c) 平成30年9月1日から平成31年8月31日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の4分の3
- (d) 平成31年9月1日から平成34年4月30日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数のすべて
- (4) 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- (5) 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。
- (6) 本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
- (7) 各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。
2. 当社が、合併(当社が合併により消滅する場合に限る。)、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転(以上を総称して以下、「組織再編行為」という。)を行う場合において、組織再編行為の効力発生日に新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社(以下、「再編対象会社」という。)の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとする。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約または株式移転計画において定めた場合に限るものとする。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
- (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件を勘案のうえ、下記に準じて決定する。  
本新株予約権1個当たりの目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は、当社普通株式100株とする。
- なお、付与株式数は、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下同じ。)または株式併合を行う場合、次の算式により調整されるものとする。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で行使されていない新株予約権の目的である株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。
- 調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割(または併合)の比率

また、本新株予約権の割当日後、当社が合併、会社分割または資本金の額の減少を行う場合その他これらの場合に準じ付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲で、付与株式数は適切に調整されるものとする。

(4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、組織再編行為の条件等を勘案のうえ、下記で定められる行使価額を調整して得られる再編後行使価額に、上記(3)に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じた額とする。

本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、1株あたりの払込金額(以下、「行使価額」という。)に、付与株式数を乗じた金額とする。

行使価額は、金875円とする。

なお、本新株予約権の割当日後、当社が株式分割または株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割(または併合)の比率}}$$

また、本新株予約権の割当日後、当社が当社普通株式につき時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合(新株予約権の行使に基づく新株の発行及び自己株式の処分並びに株式交換による自己株式の移転の場合を除く。)、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の1株当たりの時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

なお、上記算式において「既発行株式数」とは、当社普通株式にかかる発行済株式総数から当社普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、当社普通株式にかかる自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替えるものとする。

さらに、上記のほか、本新株予約権の割当日後、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じて行使価額の調整を必要とする場合には、当社は、合理的な範囲で適切に行使価額の調整を行うことができるものとする。

(5) 新株予約権を行使することができる期間

平成27年5月1日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から平成34年4月30日までとする。

(6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

下記に準じて決定する。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とする。計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。

本新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から、上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

(7) 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による取得の制限については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとする。

(8) その他新株予約権の行使の条件

上記(注)1.に準じて決定する。

(9) 新株予約権の取得事由及び条件

下記に準じて決定する。

当社が消滅会社となる合併契約、当社が分割会社となる会社分割についての分割契約もしくは分割計画、または当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画について株主総会の承認(株主総会の承認を要しない場合には取締役会決議)がなされた場合は、当社は、当社取締役会が別途定める日の到来をもって、本新株予約権の全部を無償で取得することができる。

新株予約権者が権利行使をする前に、上記(注)1.に定める規定により本新株予約権の行使ができなくなった場合は、当社は新株予約権を無償で取得することができる。

(10) その他の条件については、再編対象会社の条件に準じて決定する。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成23年6月1日 (注)2	9,727,120	9,776,000	-	1,359,280	-	1,528,880
平成23年6月1日～ 平成24年5月31日 (注)1	12,000	9,788,000	402	1,359,682	402	1,529,282
平成24年6月1日～ 平成25年5月31日 (注)1	18,000	9,806,000	603	1,360,285	603	1,529,885
平成27年6月1日～ 平成28年5月31日 (注)1	175,000	9,981,000	77,262	1,437,547	77,262	1,607,147

(注)1. 発行済株式総数、資本金及び資本準備金の増加は、新株予約権の権利行使によるものであります。

2. 株式分割(1:200)によるものであります。

## (6) 【所有者別状況】

平成28年5月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	19	22	50	45	7	4,502	4,645	-
所有株式数(単元)	-	16,568	730	11,439	6,208	15	64,832	99,792	1,800
所有株式数の割合(%)	-	16.60	0.73	11.46	6.22	0.02	64.97	100	-

(注)自己株式637,065株は、「個人その他」に6,370単元、「単元未満株式の状況」に65株含めて記載しております。

## (7)【大株主の状況】

平成28年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
岡本 泰彦	兵庫県西宮市	3,490,900	34.98
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8-11	932,700	9.34
有限会社マナックス	奈良県大和高田市大字大中106-2	840,000	8.42
ジェイコムホールディングス株式 会社	大和高田商工会議所経済会館 大阪市北区角田町8番1号 梅田阪急ビルオフィスタワー19階	637,065	6.38
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	303,900	3.04
岡本 久美子	兵庫県西宮市	280,000	2.81
株式会社テー・オー・ダブリュー	東京都港区虎ノ門四丁目3番13号 ヒューリック神谷町ビル	280,000	2.81
岡本 真奈	兵庫県西宮市	230,000	2.30
三品 芳機	大阪市北区	155,000	1.55
BARCLAYS BANK PLC A/C CLIENT SEGREGATED A/C PB CAYMAN CLIENTS (常任代理人 パークレイズ証券 株式会社)	CHURCHILL PLACE LONDON E14 5HP (東京都港区六本木六丁目10番1号)	127,900	1.28
計	-	7,277,465	72.91

(注) 1. 上記信託銀行の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 932,700株

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 303,900株

2. 平成28年6月3日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、レオス・キャピタルワークス株式会社が以下の株式を所有している旨が記載されておりますが、当社として平成28年5月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮しておりません。なお、当該大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
レオス・キャピタル ワークス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目11番1号	740,200	7.42

## ( 8 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成28年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 637,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,342,200	93,422	-
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	9,981,000	-	-
総株主の議決権	-	93,422	-

## 【自己株式等】

平成28年5月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
ジェイコム ホールディングス 株式会社	大阪市北区角田町8番1 号梅田阪急ビルオフィス タワー19階	637,000		637,000	6.38
計	-	637,000		637,000	6.38

## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

## ( 第2回新株予約権 )

会社法に基づき、平成27年4月1日に在任する当社取締役に対して新株予約権を発行することを、平成27年4月1日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成27年4月1日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 3
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

## (第3回新株予約権)

会社法に基づき、平成27年4月1日に在任する当社及び当社子会社取締役及び監査役、同日現在在籍する当社及び当社子会社使用人に対して新株予約権を発行することを、平成27年4月1日の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	平成27年4月1日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 4 子会社取締役 1 監査役 1 従業員 9 子会社従業員 79
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

## (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	-	-
当期間における取得自己株式	38	75,316

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

## (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	637,065		637,065	

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成28年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### 3【配当政策】

当社グループの配当政策は、財務体質を強固なものとすること及び事業への再投資による企業価値の向上を図りつつ、その一方で、利益還元を積極的かつタイムリーに行うべく、連結配当性向35%以上を目標とし、中間配当及び期末配当の年2回配当を実施する方針としております。

これら配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

この方針のもと、当期の配当金につきましては、1株につき年間40円の配当を実施することといたしました。内訳としては、中間配当金として1株につき15円、期末配当金として1株につき25円（うち上場10周年記念配当5円）であります。これにより、当期の連結配当性向は19.7%となりました。

内部留保資金につきましては、経営基盤の強化並びに将来の事業展開に向けた投資等に活用したいと考えております。

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議により、毎年11月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当期に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（千円）	1株当たり配当額（円）
平成28年1月8日 取締役会決議	137,534	15
平成28年8月29日 定時株主総会決議	233,598	25

当社は、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる。」旨を定款に定めております。

### 4【株価の推移】

#### （1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	平成24年5月	平成25年5月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月
最高（円）	1,065	1,020	884	1,029	2,870
最低（円）	613	600	694	720	833

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### （2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年12月	平成28年1月	2月	3月	4月	5月
最高（円）	1,638	2,191	2,320	2,784	2,870	2,729
最低（円）	1,367	1,350	1,750	2,128	2,480	2,331

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。



## 5【役員 の 状況】

男性6名 女性2名 (役員のうち女性の比率25.0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		岡本 泰彦	昭和36年4月6日生	昭和60年4月 株式会社広島銀行入社 昭和63年10月 株式会社文化倶楽部入社 平成元年4月 同社取締役就任 平成5年9月 株式会社パワーズインターナショナル(現 ジェイコムホールディングス株式会社)設立 同代表取締役社長(現任) 平成21年12月 ジェイコム株式会社 代表取締役社長 株式会社サクセスアカデミー(現サクセスホールディングス株式会社)取締役 平成22年6月 ジェイコム株式会社 代表取締役会長 平成26年1月 株式会社サンライズ・ヴィラ 取締役会長 平成26年6月 ジェイコム株式会社 代表取締役会長兼社長 平成27年6月 株式会社サンライズ・ヴィラ 代表取締役会長兼社長(現任) 平成27年8月 サクセスホールディングス株式会社代表取締役会長(現任) 平成28年6月 ジェイコム株式会社 代表取締役会長(現任)	(注)4	3,490,900
取締役		三品 芳機	昭和48年8月16日生	平成8年4月 トラーディア株式会社 (現 ジェイコムホールディングス株式会社)入社 平成13年6月 当社統括責任者 平成15年7月 当社取締役統括部長 平成16年10月 当社取締役営業本部長 平成18年6月 当社取締役執行役員 営業本部長兼東日本営業部長 平成19年8月 当社取締役常務執行役員 営業本部長兼東日本事業部長 平成20年6月 当社取締役常務執行役員 営業本部長 平成20年10月 当社取締役常務執行役員 営業本部長兼MF事業部長 平成21年12月 当社取締役常務執行役員営業統括 平成22年6月 ジェイコム株式会社 代表取締役社長 平成22年8月 当社専務取締役 平成25年8月 当社取締役(現任) ジェイコム株式会社 取締役副社長 平成27年6月 株式会社エースタッフ 代表取締役社長(現任) 平成28年6月 ジェイコム株式会社 代表取締役社長(現任)	(注)4	155,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	経営管理部長	我堂 佳世	昭和57年9月18日生	平成17年4月 日本生命保険相互会社入社 平成18年9月 当社入社 平成24年6月 当社経営管理部長 平成24年12月 ジェイコム株式会社取締役管理担当(現任) 平成25年6月 株式会社エースタッフ取締役(現任) 平成26年8月 当社取締役経営管理部長(現任) 平成27年9月 サクセスホールディングス株式会社取締役(現任)	(注)4	5,500
取締役		横 清貴	昭和26年9月3日生	昭和54年4月 弁護士登録 昭和58年4月 横法律事務所開業(現任) 平成14年4月 大阪弁護士会副会長 平成18年8月 当社監査役 平成28年8月 当社取締役(現任)	(注)4	-
取締役		寺地 孝之	昭和34年6月20日生	平成10年4月 関西学院大学商学部教授(現任) 平成21年12月 株式会社サクセスアカデミー取締役 平成22年11月 サクセスホールディングス株式会社取締役 平成23年4月 関西学院大学教務部長 平成26年4月 関西学院大学商学部長 平成27年8月 当社取締役(現任)	(注)4	-
取締役 (監査等委員)		蓬萊 仁美	昭和43年3月6日生	昭和63年4月 興和新薬株式会社入社 平成6年2月 当社入社 平成25年6月 株式会社エースタッフ監査役(現任) 平成25年8月 当社監査役 ジェイコム株式会社監査役(現任) 平成28年8月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)5	11,900
取締役 (監査等委員)		赤築 伸久	昭和30年2月27日生	昭和63年12月 税理士試験合格 平成元年3月 赤築伸久税理士事務所開業(現任) 平成2年3月 有限会社赤築会計事務所設立代表取締役 平成16年10月 当社監査役 平成28年8月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)5	20,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (監査等委員)		水谷 彰孝	昭和39年6月8日生	昭和63年4月 野村證券株式会社入社 平成10年12月 第一勧業証券株式会社(現 みずほ証券株式会社)入社 平成13年4月 アイ・キャピタル証券株式会社入社 取締役投資部長 平成19年9月 株式会社アイビス・キャピタル・パートナーズ設立 代表取締役副社長(現任) 平成24年8月 当社取締役 平成25年4月 株式会社農業生産法人たまな五葉倶楽部代表取締役会長(現任) 平成26年6月 株式会社フンドーダイ五葉代表取締役会長 平成27年9月 タイリョウ株式会社代表取締役社長(現任) 平成28年3月 株式会社フンドーダイ五葉代表取締役社長(現任) 平成28年8月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)5	-
計						3,683,300

- (注) 1. 平成28年8月29日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。
2. 横 清貴、寺地孝之、赤築伸久及び水谷彰孝は、社外取締役であります。
3. 当社の監査等委員会については次のとおりであります。  
委員長 蓬萊 仁美、委員 赤築 伸久、委員 水谷 彰孝
4. 平成28年8月29日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
5. 平成28年8月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
6. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠取締役(監査等委員)1名を選任しております。補欠取締役(監査等委員)の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
三野 崇宏	昭和50年10月20日生	平成11年4月 株式会社アングローバル入社 平成16年9月 社会保険労務士試験合格 平成17年1月 大阪社会保険事務局入局 平成18年10月 当社入社 平成25年8月 当社内部監査人 平成27年6月 当社内部監査室長(現任) 平成28年3月 サクセスホールディングス株式会社取締役(監査等委員)(現任)	-

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、「...planning the Future～人を活かし、未来を創造する～」をグループ理念とし、人生のどの段階においても社会になくってはならない企業集団を目指しており、コーポレート・ガバナンスへの取組みを重要な経営課題として認識しております。これを実現するために、当社グループの役員、従業員及びサービス利用者が、常に公正で機能的な行動をとることができるよう、持株会社体制であることを活かし、コンプライアンス体制を持株会社に集約し、持株会社の機能をグループ全体の経営管理に集中させることにより、グループ全体のコーポレート・ガバナンスの強化を図っており、以下に記載する施策を実施しております。

なお、平成28年8月29日開催の定時株主総会において、監査等委員会設置会社への移行を内容とする定款変更決議がされたことにより、当社は同日付をもって監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しております。

#### 企業統治の体制

##### a．企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由及び内部統制システムの整備の状況

当社の取締役会は、取締役8名で構成され、グループ全体における業務の意思決定及び取締役による業務執行を監督する機関として位置付けております。当社の社外取締役は4名体制となっており、それぞれ金融商品取引所に定める基準に基づき選任しております。監査等委員会設置会社として、社外取締役を含めた監査等委員会の経営監査は有効に機能していると考えております。

業務執行については、取締役会で決定した事項について、事業会社及び業務部門が速やかに業務を執行できる体制を構築しております。さらに、当社グループの取締役、幹部社員が出席する経営会議が月1回以上開催されており、幹部社員から業務執行の進捗状況が報告されるとともに、社長及び取締役から、詳細かつ具体的に業務執行に対する指示が行われております。

監査等委員会の機能強化に関する取組状況について、当社は監査等委員である取締役が3名就任しておりますが、それぞれが、元当社内部監査人、税理士、事業会社社長として、経営、会計・税務、法務面に高い知見を有しており、多面から当社経営に対し、監督、助言等を実施しております。監査等委員は2ヶ月に1回以上監査等委員会を開催し、協議・意見交換を行っております。また、監査等委員である取締役は3名のうち2名が社外取締役であり、経営陣から独立した立場で責務を遂行しております。

##### b．内部統制システムの整備の状況

ジェイコムホールディングス株式会社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、以下のとおり業務の適正を確保するための体制を整備することにより、法令・定款を遵守し、取引先や投資家ほか当社グループを取り巻くあらゆる関係者に対して誠実に行動をとり、企業としての使命である社会的責任を果たします。

##### 1．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理規程に基づき、取締役の職務の執行に係る情報を、文書又は電磁的媒体に適切かつ確実に検索性の高い状態で記録し、あらかじめ定めている保存期間に応じて保存します。

##### 2．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

企業活動の中で生じる様々なリスクについては、リスク管理担当として経営管理部長を任命しており、企業グループ全体のリスクを網羅的に把握し、統括して管理を行います。何らかのリスクが生じた場合は、適時開示規程により、速やかにリスク管理担当役員に情報を集約できる体制を構築します。また、内部監査人は経営管理部と協調して、企業グループ内における各部署のリスク管理の状況を監査し、取締役に報告を行います。さらに不測の事態が生じた場合には、社長を中心とした対策本部を設置し、監査等委員、顧問弁護士その他外部アドバイザーと連携し、損失を最小限にすべく迅速に行動します。

##### 3．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役の職務の執行については、組織・業務分掌規程、職務権限規程において、意思決定ルールを明確化し、適正かつ効率的に行われる体制をとります。

#### 4．取締役及び従業員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンスを重視し、取締役、当社グループの役職員及びサービス利用者が法令・定款を遵守した行動をとれるよう継続的な教育・指導を行います。当社経営管理部がコンプライアンスに対するグループ全体の取組みを統括し、顧問弁護士と連携をとりつつ事業全般に対するコンプライアンスの維持を図ります。そして、更なる意識向上を目指し、グループ内の役職員については当社経営管理部が中心となって、当社グループのサービス利用者については当社経営管理部のサポートのもと、事業会社の営業部門が中心となってコンプライアンスの徹底を行います。また、内部監査室は、監査等委員及び経営管理部と連携のうえ、当社グループ全体のコンプライアンスの状況を監査し、社長及び監査等委員に報告を行います。

#### 5．当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

子会社についても当社とほぼ同水準の内部統制システムの構築を目指し、当社経営管理部長を統括責任者とし、経営管理部が主体となって当社グループ全体の内部統制を網羅的に管理し、子会社においては各社社長が中心となって内部統制システムを構築します。

#### 6．監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び従業員に関する事項、当該取締役及び従業員の他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの独立性に関する事項並びに当該取締役及び従業員に対する指示の実効性の確保に関する事項

現時点において、監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び従業員（以下「補助従業員等」といいます。）は配置しておりませんが、監査等委員会の要求を受けた場合、補助従業員等を置くこととします。補助従業員等は、監査等委員会が中心となって人選することとしており、監査等委員会が選定した監査等委員より監査業務に必要な命令を受けた補助従業員等は、他の取締役（監査等委員である取締役を除く。）からの指揮命令を受けないものとします。また、同従業員等の人事、評価、給与等についても、同様に独立性が確保できるよう配慮します。

#### 7．当社及び子会社の取締役及び従業員が監査等委員会に報告するための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制

当社及び子会社の取締役及び従業員は、監査等委員会に対して法定の事項に加え、重要会議の日程・会議事項の報告、当社の業務又は業績に重要な影響を及ぼす事項、適時開示事項の内容その他監査等委員会が必要と認める事項を、速やかに報告することとします。また、内部監査室は、監査等委員会に対して内部監査計画を明示するとともに、内部監査の実施状況を速やかに報告することとします。

#### 8．その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査等委員会が選定する監査等委員は、何時でも取締役及び従業員に対して報告を求めることができ、また、必要に応じて社内におけるすべての会議に出席できることとします。このほか、社長ほか各取締役、内部監査室及び会計監査人と、それぞれに意見交換会を設定することができます。

監査等委員会への報告を行った取締役（監査等委員である取締役を除く。以下本項において同じ。）及び従業員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を取締役及び従業員に周知徹底します。

監査等委員がその職務の執行（監査等委員会の職務の執行に関するものに限る。）について、当社に対し費用の前払等の請求をしたときは、当該請求に係る費用又は債務が当該監査等委員の職務の執行に必要なでないことを証明できる場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理します。

#### 9．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

反社会的勢力との関係については、社会的責任及び企業防衛の観点から、断固持たないとの基本方針のもと、一切の関係遮断のために、直接的なアプローチのほか、機関紙購入や一方的な送付、寄付金・賛助金の支出、クレーム及び示談金の要求、広告掲載、口止め料、株主総会関係等による間接的なアプローチに対しても常に注意を払って行動しております。この取組方針は、当社グループの全ての社員に対して徹底しており、個人的にも関係を持たないよう、また、異常、不自然な兆候があった場合には、速やかに当社経営管理部長及び必要に応じて社長に連絡することとしております。

反社会的勢力との関係がない旨の確認は、取引先については、新規取引の開始時に販売管理規程の定めに基づき、相手先企業の経営内容や経営者等について事前調査を行っており、従業員については、採用の際に履歴書の提出を求めるとともに、必ず担当役員、社長による面談を実施し、採用予定者の本人確認を行っております。また、当社グループのサービス利用者に対しても、必ず事業会社の営業担当者が20分程度の面談を実施するとともに、身分証明書による本人確認を行っております。

これらにもかかわらず、反社会的勢力とは知らずに、当社グループの意に反して何らかの関係を有してしまった場合には、相手方が反社会的勢力であると判明した時点、あるいはその疑いが生じた時点で、速やかに関係を解消するべく対応することとしております。

#### 内部監査及び監査等委員会監査の状況

内部監査については、内部監査人を設け、監査等委員会と定期的に内部監査の実施状況を速やかに報告を行います。監査等委員会は会計監査人の監査の際には、可能な限り監査等委員である取締役が立ち会いを行っており、年4回以上、会計監査人から監査等委員である取締役に対して監査報告が行われているほか、会計監査人と監査等委員である取締役が常に直接連絡可能な体制をとっております。

監査等委員である取締役が3名就任しておりますが、それぞれが、元当社内部監査人、税理士、事業会社社長として、経営、会計・税務、法務面に高い知見を有しており、多面から当社経営に対し、監督、助言等を実施しており、取締役会その他重要会議への出席のほか、会計・税務、法務その他多面から監査、質問、助言等を実施しております。

また、監査等委員である取締役は2ヶ月に1回以上監査等委員会を開催し、協議・意見交換を行っておりますが、社外取締役の専任スタッフは配置せず、内部監査室がサポートしております。

#### 会計監査の状況

当期（自平成27年6月1日 至平成28年5月31日）において、業務を執行した公認会計士は有限責任 あずさ監査法人の松本浩、安田智則であり、補助者は公認会計士7名、その他4名で構成されております。

#### 社外取締役について

当社の社外取締役は、監査等委員である取締役以外の取締役が2名、監査等委員である取締役が2名となっております。

監査等委員である取締役以外の取締役横清貴氏は、社外役員となること以外の方法で会社経営に関与した経験がありませんが、弁護士として企業法務に対する豊富な知識と経験を有していることから、社外取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、選任しております。

監査等委員である取締役以外の取締役寺地孝之氏は、社外役員となること以外の方法で会社経営に関与した経験がありませんが、学識者としての幅広い経験と見識を有していることから、社外取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、選任しております。なお、同氏は、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者等であった経歴がないことから、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

監査等委員である取締役赤築伸久氏は、税理士として税務に豊富な知識と経験を有していることから、水谷彰孝氏は、経営者としての豊富な経験と幅広い知識を有していることから、社外取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、選任しております。なお、両氏は、当社の主要株主や主要取引先の業務執行者等であった経歴がないことから、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

当社は社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。なお、社外取締役赤築伸久は当期末現在で当社株式20,000株を保有しておりますが、その他の利害関係はありません。

## 役員報酬の内容

## a. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	61,600	61,600	-	-	-	4
監査役 (社外監査役を除く)	5,160	5,160	-	-	-	1
社外役員	3,900	3,900	-	-	-	4

(注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

2. 平成28年8月29日開催の第23期定時株主総会において、監査等委員である取締役以外の報酬額は年額4億8千万円以内(うち社外取締役分は年額2千万円以内)、監査等委員である取締役の報酬額は年額6千万円以内と決議いただいております。

## b. 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である役員が存在しないため、記載しておりません。

## c. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

監査等委員である取締役以外の報酬については、取締役会において決定しており、監査等委員である取締役の報酬については、監査等委員である取締役の協議により決定しております。

## 株式の保有状況

## a. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

3銘柄 359,265千円

## b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的前事業年度

## 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社テー・オー・ダブリュー	260,000	275,860	資本・業務提携
上新電機株式会社	11,000	10,472	取引先との関係強化を目的とした保有

## 当事業年度

## 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社テー・オー・ダブリュー	520,000	339,560	資本・業務提携
上新電機株式会社	11,000	10,362	取引先との関係強化を目的とした保有

## c. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当事項はありません。

## d. 投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額

該当事項はありません。

## e. 投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額

該当事項はありません。

## 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役である横 清貴氏、寺地孝之氏、赤築伸久氏、水谷彰孝氏とは、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、500万円以上であらかじめ定められた金額又は法令が定める金額のいずれか高い額としております。

#### 取締役の定数

監査等委員である取締役以外の取締役は8名以内、監査等委員である取締役は4名以内とする旨定款に定めております。

#### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において監査等委員である取締役以外の取締役と監査等委員である取締役を区別して議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。なお、取締役の選任決議は累積投票によらないこととしております。

#### 剰余金の配当等の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議により、期末配当は毎年5月31日、中間配当は毎年11月30日の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対しこれを行うことができる旨を定款に定めております。

#### 取締役の責任免除

当社は、期待される役割を十分に発揮できるよう、取締役会の決議により、取締役（取締役であった者を含む。）の損害賠償責任を法令が定める範囲で免除することができる旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

### (2) 【監査報酬の内容等】

#### 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	22,600	-	29,000	-
連結子会社	-	-	10,500	-
計	22,600	-	39,500	-

#### 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

#### 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

#### 【監査報酬の決定方針】

監査計画を基に、監査役からの意見聴取を踏まえ、前年度の監査報酬や社会動向等を勘案し、決定しております。



## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)の連結財務諸表及び事業年度(自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また会計基準の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入することで研修等へ参加し、当社グループ内において情報を共有しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,433,557	5,272,933
受取手形及び売掛金	2,023,197	3,283,208
有価証券	-	100,185
商品	2,227	768
原材料及び貯蔵品	2,510	23,646
繰延税金資産	57,687	182,021
その他	217,895	767,512
貸倒引当金	1,632	4,106
<b>流動資産合計</b>	<b>4,735,444</b>	<b>9,626,168</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	912,259	6,015,678
減価償却累計額	407,012	1,653,735
減損損失累計額	-	3,538
<b>建物及び構築物(純額)</b>	<b>505,247</b>	<b>4,358,405</b>
機械装置及び運搬具	34,131	43,200
減価償却累計額	19,823	28,344
<b>機械装置及び運搬具(純額)</b>	<b>14,308</b>	<b>14,856</b>
リース資産	-	689,528
減価償却累計額	-	93,141
<b>リース資産(純額)</b>	<b>-</b>	<b>596,387</b>
建設仮勘定	-	246,487
その他	323,092	647,209
減価償却累計額	262,922	477,715
減損損失累計額	-	3,614
<b>その他(純額)</b>	<b>60,170</b>	<b>165,879</b>
<b>有形固定資産合計</b>	<b>579,725</b>	<b>5,382,015</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	516,550	3,433,321
その他	74,750	121,772
<b>無形固定資産合計</b>	<b>591,301</b>	<b>3,555,094</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,145,858	979,726
関係会社株式	1,061,572	16,000
長期貸付金	298,892	734,877
差入保証金	784,397	1,467,805
その他	86,374	276,982
貸倒引当金	4,659	4,659
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>3,372,436</b>	<b>3,470,732</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>4,543,464</b>	<b>12,407,842</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,278,908</b>	<b>22,034,011</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	139,727	129,470
短期借入金	-	2,800,000
1年内返済予定の長期借入金	12,000	1,219,611
未払金	1,098,250	1,852,775
未払法人税等	303,891	549,370
未払消費税等	420,284	274,944
賞与引当金	131,664	407,343
その他	324,118	1,108,811
流動負債合計	2,429,937	6,342,328
固定負債		
長期借入金	871,464	1,563,356
繰延税金負債	82,734	91,918
資産除去債務	30,302	249,055
受入人居保証金	865,909	958,275
退職給付に係る負債	-	188,504
リース債務	-	575,371
その他	56,205	55,787
固定負債合計	1,906,616	7,751,268
負債合計	4,336,553	14,093,597
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,360,285	1,437,547
資本剰余金	1,529,885	1,607,147
利益剰余金	2,602,452	4,198,679
自己株式	740,236	740,236
株主資本合計	4,752,386	6,503,139
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	178,608	213,235
退職給付に係る調整累計額	-	873
その他の包括利益累計額合計	178,608	212,362
新株予約権	3,795	2,319
非支配株主持分	7,563	1,222,592
純資産合計	4,942,354	7,940,414
負債純資産合計	9,278,908	22,034,011

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
売上高	18,067,776	31,844,692
売上原価	15,181,278	26,499,891
売上総利益	2,886,497	5,344,800
販売費及び一般管理費		
給与報酬手当	858,779	1,288,650
賞与引当金繰入額	73,242	105,946
のれん償却額	153,145	499,387
採用教育費	387,718	748,606
賃借料	237,020	312,651
その他	706,430	1,241,811
販売費及び一般管理費合計	2,416,337	4,197,053
営業利益	470,160	1,147,747
営業外収益		
受取利息	10,778	8,019
受取配当金	16,612	18,429
持分法による投資利益	21,512	54,989
投資事業組合運用益	2,924	-
設備補助金収入	-	474,307
その他	14,046	46,612
営業外収益合計	65,875	602,358
営業外費用		
支払利息	14,400	49,640
和解金	5,274	-
投資事業組合運用損	-	6,365
その他	13,634	21,802
営業外費用合計	33,308	77,807
経常利益	502,726	1,672,297
特別利益		
固定資産売却益	1,160	1,768
段階取得に係る差益	-	1,230,845
投資有価証券売却益	32,257	4,823
関係会社株式売却益	2,336,401	10,000
持分変動利益	54,589	-
その他	-	15,838
特別利益合計	424,908	1,263,275

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
特別損失		
固定資産除却損	3 4,128	3 2,996
固定資産売却損	4 7,246	-
本社移転費用	21,350	-
事務所移転費用	-	45,351
役員退職慰労金	-	209,000
減損損失	-	5 7,153
損害賠償金	42,991	-
その他	7,474	-
特別損失合計	83,191	264,501
税金等調整前当期純利益	844,443	2,671,071
法人税、住民税及び事業税	418,665	734,157
法人税等調整額	32,074	166,537
法人税等合計	386,591	567,620
当期純利益	457,852	2,103,450
非支配株主に帰属する当期純利益	126,595	232,154
親会社株主に帰属する当期純利益	331,256	1,871,295

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
当期純利益	457,852	2,103,450
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	83,313	34,652
繰延ヘッジ損益	224	-
退職給付に係る調整額	-	1,742
持分法適用会社に対する持分相当額	5	2
その他の包括利益合計	1, 2 83,531	1, 2 32,907
包括利益	541,384	2,136,357
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	414,743	1,905,049
非支配株主に係る包括利益	126,640	231,307

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,360,285	1,529,885	2,546,263	740,236	4,696,198
当期変動額					
剰余金の配当			275,068		275,068
親会社株主に帰属する当期純利益			331,256		331,256
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	56,188	-	56,188
当期末残高	1,360,285	1,529,885	2,602,452	740,236	4,752,386

（単位：千円）

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	95,314	193	95,121	-	153,236	4,638,083
当期変動額						
剰余金の配当						275,068
親会社株主に帰属する当期純利益						331,256
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	83,293	193	83,486	3,795	160,799	248,082
当期変動額合計	83,293	193	83,486	3,795	160,799	304,270
当期末残高	178,608	-	178,608	3,795	7,563	4,942,354

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,360,285	1,529,885	2,602,452	740,236	4,752,386
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	77,262	77,262			154,525
剰余金の配当			275,068		275,068
親会社株主に帰属する当期純利益			1,871,295		1,871,295
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	77,262	77,262	1,596,227	-	1,750,752
当期末残高	1,437,547	1,607,147	4,198,679	740,236	6,503,139

（単位：千円）

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	178,608	-	178,608	3,795	7,563	4,942,354
当期変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）						154,525
剰余金の配当						275,068
親会社株主に帰属する当期純利益						1,871,295
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	34,627	873	33,754	1,476	1,215,029	1,247,307
当期変動額合計	34,627	873	33,754	1,476	1,215,029	2,998,059
当期末残高	213,235	873	212,362	2,319	1,222,592	7,940,414



## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	844,443	2,671,071
減価償却費	93,699	470,553
のれん償却額	153,145	499,387
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,014	1,812
賞与引当金の増減額(は減少)	39,721	185,818
受取利息及び受取配当金	27,391	26,449
段階取得に係る差損益(は益)	-	1,230,845
投資有価証券売却損益(は益)	29,380	4,823
関係会社株式売却損益(は益)	336,401	10,000
役員退職慰労金	-	209,000
持分法による投資損益(は益)	21,512	54,989
持分変動損益(は益)	54,589	-
設備補助金収入	-	474,307
売上債権の増減額(は増加)	472,205	487,377
仕入債務の増減額(は減少)	68,534	10,256
未払金の増減額(は減少)	84,748	337,148
受入人居保証金の増減額(は減少)	239,407	92,365
前払費用の増減額(は増加)	25,682	37,164
未払消費税等の増減額(は減少)	364,133	153,197
未収消費税等の増減額(は増加)	1,372	7,771
その他	100,896	364,582
小計	1,075,575	2,350,100
利息及び配当金の受取額	62,788	28,052
利息の支払額	15,488	50,475
法人税等の支払額	145,814	769,168
補助金の受取額	-	294,867
役員退職慰労金の支払額	-	209,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	977,060	1,644,375
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	217,175	5,212
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	324,706	114,235
定期預金の預入による支出	200,000	20,000
定期預金の払戻による収入	100,000	120,000
関係会社株式の取得による支出	414,926	-
関係会社株式の売却による収入	225,000	10,000
有形固定資産の取得による支出	84,634	969,327
有形固定資産の売却による収入	35,842	6,591
無形固定資産の取得による支出	43,034	87,164
差入保証金の差入による支出	76,256	137,832
差入保証金の回収による収入	39,236	25,258
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 649,291
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	3 56,247	-
その他	51,381	80,876
投資活動によるキャッシュ・フロー	418,871	1,673,618

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	1,542,527	-
短期借入れによる収入	1,200,000	-
短期借入金の純増減額（は減少）	-	800,000
社債の償還による支出	108,700	10,000
長期借入金の返済による支出	613,540	1,029,363
長期借入れによる収入	870,000	3,450,018
新株予約権の発行による収入	3,795	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	153,125
配当金の支払額	275,781	275,699
非支配株主への配当金の支払額	2,322	97,110
非支配株主からの払込みによる収入	187,500	-
その他	17,650	42,349
財務活動によるキャッシュ・フロー	299,226	2,948,618
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	258,962	2,919,375
現金及び現金同等物の期首残高	2,074,594	2,333,557
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,333,557	1 5,252,933

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 6社

連結子会社名 ジェイコム株式会社、株式会社エースタッフ、  
A C Aヘルスケア・再編1号投資事業有限責任組合、株式会社サンライズ・ヴィラ、サクセス  
ホールディングス株式会社、株式会社サクセスアカデミー

なお、持分法適用関連会社であったサクセスホールディングス株式会社の普通株式について金融商品取引法に基づく公開買付けを実施した結果、平成27年7月3日における同社に対する議決権所有割合は50.1%となり、同社及び同社の連結子会社である株式会社サクセスアカデミーは当社の連結子会社となりました。これにより、第1四半期連結会計期間末において、同社を持分法適用の範囲から除外し、連結の範囲に追加しております。

(2) 非連結子会社の名称等

非連結子会社はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数 0社

なお、持分法適用関連会社であったサクセスホールディングス株式会社の普通株式について金融商品取引法に基づく公開買付けを実施した結果、平成27年7月3日における同社に対する議決権所有割合は50.1%となり、同社及び同社の連結子会社である株式会社サクセスアカデミーは当社の連結子会社となりました。これにより、第1四半期連結会計期間末において、同社を持分法適用の範囲から除外し、連結の範囲に追加しております。

(2) 持分法を適用していない関連会社(株式会社キャリアデザイン・アカデミー)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。なお、株式会社アスリートグリーン兵庫は、当連結会計年度に全株式を売却したため、関連会社から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち株式会社エースタッフの決算日は3月31日、A C Aヘルスケア・再編1号投資事業有限責任組合の決算日は9月30日、株式会社サンライズ・ヴィラの決算日は10月31日、サクセスホールディングス株式会社、株式会社サクセスアカデミーの決算日は4月30日であります。連結財務諸表の作成にあたり、A C Aヘルスケア・再編1号投資事業有限責任組合については3月31日、株式会社サンライズ・ヴィラについては4月30日を決算日とみなした仮決算に基づく財務諸表を使用し、株式会社エースタッフ、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーについては決算日の差異が3ヶ月を超えないため、当該子会社の正規の決算を基礎として連結決算を行っております。ただし、それぞれの決算日から連結決算日5月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、当連結会計年度より、連結子会社のサクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーは決算日を12月31日から4月30日に変更しております。これに伴い、当連結会計年度において、平成27年7月1日から平成28年4月30日までの10ヶ月間を連結しており、決算期変更したサクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーの平成28年4月1日から平成28年4月30日までの売上高は、1,180,290千円、営業利益は2,568千円、経常利益は119,288千円、親会社株主に帰属する当期純利益は56,891千円であります。

## 4. 会計方針に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

商品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

原材料及び貯蔵品

主に先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

デリバティブ

時価法によっております。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備除く。）については、定額法、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8年～37年

機械装置及び運搬具 5年～6年

その他 3年～15年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）によっております。

リース資産（所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産）

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

## (4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

## (5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、その個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で償却しております。

## (6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ

ヘッジ対象 借入金の利息

ヘッジ方針

当社の社内規程により定める基本ルールに基づき金利変動リスクを回避する目的でデリバティブ取引を行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して、相場変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと見込まれるため、ヘッジの有効性の判定は省略しております。

## (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## (8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

## (会計方針の変更)

## (企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)  
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ14,000千円減少しております。

また、セグメント情報、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

## (減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当連結会計年度より適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当連結会計年度において連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

## (未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

## (表示方法の変更)

## (連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「固定資産」の「投資その他の資産」の「その他」含めていた「長期貸付金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定資産」の「投資その他の資産」の「その他」に表示していた385,267千円は、「長期貸付金」298,892千円、「その他」86,374千円として組み替えております。

## (連結損益計算書)

前連結会計年度において、「販売費及び一般管理費」の「その他」に含めていた「のれん償却額」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「販売費及び一般管理費」の「その他」に表示していた859,576千円は、「のれん償却額」153,145千円、「その他」706,430千円として組み替えております。

## (連結貸借対照表関係)

## 1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
消去されている連結子会社株式	- 千円	2,132,480千円
計	-	2,132,480

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
1年内返済予定の長期借入金	- 千円	268,800千円
長期借入金	-	1,634,800
計	-	1,903,600

## 2 当座貸越契約

当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
当座貸越極度額の総額	2,100,000千円	2,800,000千円
借入実行残高	-	800,000
差引額	2,100,000	2,000,000

## (連結損益計算書関係)

## 1 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)
車両運搬具	1,660千円	1,768千円

2 前連結会計年度の関係会社株式売却益は、連結子会社であったジャパンコントラクトフード株式会社の全株式を譲渡したことによる233,755千円及び連結子会社株式会社サンライズ・ヴィラの株式の一部を譲渡したことによる129,888千円からこれらの株式譲渡に要した手数料27,242千円を控除して計上しております。

## 3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
建物及び構築物	3,201千円	1,808千円
その他(有形固定資産)	926	747
その他(無形固定資産)	-	440

## 4 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
土地	6,028千円	- 千円
建物及び構築物	387	-
その他(有形固定資産)	830	-

## 5 減損損失

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

なお、前連結会計年度については、該当事項はありません。

場所	用途	種類
介護関連サービス事業における介護付有料老人ホーム (埼玉県春日部市)	介護付有料老人ホーム	建物及び構築物、その他

当社グループは、原則として、事業用資産については各施設を基準としてグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、上記施設は予算を大幅に下回る営業赤字が継続しており、早期の営業黒字化が困難であると判断し固定資産簿価全額を減損損失(7,153千円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物及び構築物3,538千円及びその他3,614千円であります。

(連結包括利益計算書関係)

## 1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	144,727千円	48,483千円
組替調整額	29,138	4,696
計	115,589	43,787
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	17	-
組替調整額	241	-
計	224	-
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	-	23,003
組替調整額	-	22,601
計	-	402
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	5	2
税効果調整前合計	115,808	43,381
税効果額	32,276	10,474
その他の包括利益合計	83,531	32,907

## 2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	115,589千円	43,787千円
税効果額	32,276	9,134
税効果調整後	83,313	34,652
繰延ヘッジ損益：		
税効果調整前	224	-
税効果額	-	-
税効果調整後	224	-
退職給付に係る調整額：		
税効果調整前	-	402
税効果額	-	1,339
税効果調整後	-	1,742
持分法適用会社に対する持分相当額：		
税効果調整前	5	2
税効果額	-	-
税効果調整後	5	2
その他の包括利益合計		
税効果調整前	115,808	43,381
税効果額	32,276	10,474
税効果調整後	83,531	32,907



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成26年6月1日至平成27年5月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年 度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	9,806,000	-	-	9,806,000
自己株式				
普通株式	637,065	-	-	637,065

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	463,800	-	463,800	3,795
合計		-	-	463,800	-	463,800	3,795

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年8月25日 定時株主総会	普通株式	137,534	15	平成26年5月31日	平成26年8月26日
平成27年1月9日 取締役会	普通株式	137,534	15	平成26年11月30日	平成27年2月10日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年8月28日 定時株主総会	普通株式	137,534	利益剰余金	15	平成27年5月31日	平成27年8月31日

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (株)	当連結会計年 度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式(注)	9,806,000	175,000	-	9,981,000
自己株式				
普通株式	637,065	-	-	637,065

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加175,000株は、新株予約権の権利行使による新株の発行によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションとして の新株予約権(注)	-	463,800	-	184,200	279,600	2,319
合計		-	463,800	-	184,200	279,600	2,319

(注) 新株予約権の当連結会計年度減少は、新株予約権の行使によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年8月28日 定時株主総会	普通株式	137,534	15	平成27年5月31日	平成27年8月31日
平成28年1月8日 取締役会	普通株式	137,534	15	平成27年11月30日	平成28年2月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年8月29日 定時株主総会	普通株式	233,598	利益剰余金	25	平成28年5月31日	平成28年8月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
現金及び預金勘定	2,433,557千円	5,272,933千円
預入期間が3か月を超える定期預金	100,000	20,000
現金及び現金同等物	2,333,557	5,252,933

## 2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)

当連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たにサクセスホールディングス株式会社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びにサクセスホールディングス株式会社株式の取得価額とサクセスホールディングス株式会社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	2,484,628千円
固定資産	5,321,422
のれん	3,416,158
流動負債	2,007,995
固定負債	3,669,362
非支配株主持分	1,080,990
段階取得による差益	1,230,845
支配獲得時までの持分法評価額	1,100,534
同社株式の取得価額	2,132,480
同社現金及び現金同等物	1,483,188
差引：同社取得のための支出	649,291

## 3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)

株式の売却によりジャパンコントラクトフード株式会社が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の売却価額と売却による支出は次のとおりです。

流動資産	643,928 千円
固定資産	17,434
のれん	77,391
流動負債	269,469
固定負債	162,492
非支配株主持分	120,548
株式売却益	233,755
同社株式の売却価額	420,000
同社現金及び現金同等物	476,247
差引：同社売却のための支出	56,247

当連結会計年度(自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)

該当事項はありません。

## (リース取引関係)

## (借主側)

## 1. ファイナンス・リース取引

## 所有権移転外ファイナンス・リース取引

## リース資産の内容

## (ア)有形固定資産

主に保育園施設、事務所の電話機、サーバーであります。

## (イ)無形固定資産

主に事務所のソフトウェアに係るものであります。

## リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

## 2. オペレーティング・リース取引

## オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
1年内	-	398,954
1年超	-	4,868,659
合計	-	5,267,614

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に照らして必要な資金や短期的な運転資金につきましては、主に銀行借入により調達しております。一時的な余資につきましては、信用リスクの低いものにより運用を行い、デリバティブについては、将来の金利変動によるリスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

有価証券、投資有価証券及び関係会社株式は、主に債券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

長期貸付金、差入保証金は、主に賃貸借契約に係るものであり、取引先企業等の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金は、3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)、ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に運転資金及び設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、支払期日は最長のもので決算日後20年であります。金利の変動リスクに晒されているものもありますが、一部はデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、販売管理規程及び与信管理規程に基づき、営業債権について、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、有価証券及び投資有価証券について、金融商品取扱規程に基づき、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を適切な水準に維持すること等により、流動性リスクを管理しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成27年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,433,557	2,433,557	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,023,197	2,023,197	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	937,388	937,388	-
(5) 関係会社株式	1,045,572	1,638,823	593,250
資産計	6,439,715	7,032,965	593,250
(1) 支払手形及び買掛金	139,727	139,727	-
(3) 未払金	1,098,250	1,098,250	-
(4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	883,464	885,223	1,758
負債計	2,121,443	2,123,201	1,758

当連結会計年度（平成28年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	5,272,933	5,272,933	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,283,208	3,283,208	-
(3) 有価証券			
その他有価証券	100,185	100,185	-
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	780,184	780,184	-
(6) 長期貸付金	734,877	732,485	2,392
(7) 差入保証金	667,525	649,667	17,857
資産計	10,838,914	10,818,664	20,249
(1) 支払手形及び買掛金	129,470	129,470	-
(2) 短期借入金	800,000	800,000	-
(3) 未払金	1,852,775	1,852,775	-
(4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）	6,851,968	6,916,784	64,815
(5) リース債務（ ）	605,354	681,544	76,189
負債計	10,239,568	10,380,574	141,005

( ) 流動負債「リース債務」と固定負債「リース債務」を合算しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

#### 資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券、(4) 投資有価証券、(5) 関係会社株式

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は、取引所の価格または取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(6) 長期貸付金、(7) 差入保証金

これらの時価については、一定の期間ごとに分類し、その将来のキャッシュ・フローを国債利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

#### 負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）、(5) リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を同様の新規借入等又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
投資有価証券		
投資事業有限責任組合出資金	199,127	190,198
非上場株式	9,343	9,343
関係会社株式		
非上場株式	16,000	16,000
差入保証金	784,397	800,280

これらについては、市場価格等がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成27年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,433,557	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,023,197	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券				
(1) 債券(社債)	-	200,000	-	-
(2) 債券(その他)	-	100,000	-	-
合計	4,456,754	300,000	-	-

## 当連結会計年度（平成28年5月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	5,272,933	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,283,208	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
(1) 債券（社債）	100,000	100,000	-	-
(2) 債券（その他）	-	100,000	-	-
長期貸付金	45,472	172,395	204,475	312,534
差入保証金	86,279	153,448	46,601	381,196
合計	8,787,893	525,843	251,077	693,730

## 4. 短期借入金、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

## 前連結会計年度（平成27年5月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	12,000	59,464	812,000	-	-	-
合計	12,000	59,464	812,000	-	-	-

## 当連結会計年度（平成28年5月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	800,000	-	-	-	-	-
長期借入金	1,219,611	1,890,947	826,308	615,980	604,612	1,694,509
リース債務	29,983	30,601	31,232	31,876	32,533	449,127
合計	2,049,594	1,921,548	857,540	647,856	637,145	2,143,636



## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度(平成27年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	287,071	136,032	151,039
	(2) 債券			
	社債	203,393	198,570	4,822
	その他	100,140	100,000	140
	(3) その他	444,910	336,905	108,004
	小計	1,035,515	771,507	264,007
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) その他	101,000	101,000	-
	小計	101,000	101,000	-
合計		1,136,515	872,507	264,007

当連結会計年度(平成28年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	350,326	135,565	214,760
	(2) 債券			
	社債	100,185	99,965	219
	(3) その他	418,799	324,560	94,239
	小計	869,310	560,090	309,219
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	522	617	95
	(2) 債券			
	社債	93,050	99,073	6,023
	(3) その他	107,686	112,562	4,876
	小計	201,258	212,253	10,995
合計		1,070,568	772,344	298,224

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	167,019	9,630	2,877
(3) その他	50,090	22,627	-
合計	217,110	32,257	2,877

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	10,261	4,823	-
合計	10,261	4,823	-

(デリバティブ取引関係)

金額的に重要性がないため記載を省略しております。

(退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

連結子会社のうち2社（サクセスホールディングス株式会社及びサクセスアカデミー）について、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。

なお、前連結会計年度において連結子会社であったジャパンコントラクトフード株式会社も同制度（簡便法を適用）を設けておりましたが、前連結会計年度に全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことから当連結会計年度においては、該当事項はありません。

また、連結子会社のうち1社（株式会社サンライズ・ヴィラ）において、確定拠出型の退職年金制度を設けております。

## 2. 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く）

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
退職給付債務の期首残高	- 千円	- 千円
連結範囲の変更に伴う増加	-	143,031
勤務費用	-	27,196
利息費用	-	247
数理計算上の差異の発生額	-	23,003
退職給付の支払額	-	4,975
退職給付債務の期末残高	-	188,504

## (2) 退職給付債務と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
非積立型制度の退職給付債務	-	188,504
退職給付に係る負債	-	188,504

## (3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
勤務費用	- 千円	27,196千円
利息費用	-	247
数理計算上の差異の費用処理額	-	128
過去勤務費用の費用処理額	-	22,472
確定給付制度に係る退職給付費用	-	50,045

## (4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
過去勤務費用	- 千円	22,472千円
数理計算上の差異	-	22,875
合計	-	402

## (5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
未認識過去勤務費用	- 千円	22,472千円
未認識数理計算上の差異	-	22,875
合計	-	402

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
割引率	- %	0.00%

## 3. 確定給付制度

## (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	10,180千円	- 千円
退職給付費用	520	-
連結の範囲の変更に伴う減少額	10,700	-
退職給付に係る負債の期末残高	-	-

## (2) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度520千円 当連結会計年度 - 千円

## 4. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度6,820千円、当連結会計年度6,831千円であります。

(ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションに係る資産計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
現金及び預金	3,795	2,319

## 2. 権利不行使による失効により利益として計上した額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
新株予約権戻入益	-	76

## 3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

## (1) ストック・オプションの内容

	第2回ストック・オプション	第3回ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 3名	当社取締役 4名 当社子会社取締役 1名 当社監査役 1名 当社従業員 9名 当社子会社従業員 79名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 180,000株	普通株式 294,400株
付与日	平成27年4月30日	同左
権利確定条件	(注)2	(注)3
対象勤務期間	定めはありません。	同左
権利行使期間	自平成27年5月1日 至平成37年4月30日	自平成27年5月1日 至平成34年4月30日

(注)1. 株式数に換算して記載しております。

2. (1) 割当日から平成32年4月30日までの間に、下記(ア)(イ)の条件に抵触しない限り、新株予約権者は自由に権利を行使することができる。また、平成32年5月1日から行使期間の終期までの期間については、新株予約権者の意思での権利行使はできないものとする。ただし、下記(ア)(イ)のいずれかの条件に抵触した場合、抵触した条件が優先され、抵触しなかった条件は消滅するものとする。

(ア) 割当日から平成32年4月30日までの間で、東京証券取引所本則市場における当社株式の普通取引の終値が一度でも行使価額の200%を上回ること。

上記条件に抵触した場合、新株予約権者は残存する全ての新株予約権について、その全てを行使価額にて行使しなければならない。

- (イ)平成27年4月30日以降から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間で、東京証券取引所本則市場における当社株式の普通取引の終値が一度でも行使価額の60%を下回ること。
- 上記条件に抵触した場合、当該時点以降、当社は残存する全ての新株予約権を行使価額の60%で行使させることができるとともに、新株予約権者は自らの意思で権利行使できない。ただし、当社が行使を指示することができるのは、当該時点以降、行使期間の終期までの場合において、東京証券取引所本則市場における当社株式の普通取引の終値が行使価額の60%を下回っている場合に限る。
- (2)下記(a)～(d)に掲げる場合に該当するときには、前記(ア)(イ)の場合であっても、新株予約権者はその義務を免れる。
- (a) 当社の開示情報に重大な虚偽が含まれることが判明した場合
- (b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合
- (c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合
- (d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合
- (3)新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- (4)新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。
- (5)本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
- (6)各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。
- 3.(1)新株予約権者は、下記(a)または(b)に掲げる経常利益(当社の有価証券報告書に記載される連結損益計算書(連結損益計算書を作成していない場合、損益計算書)における経常利益をいい、以下同様とする。)が各金額を超過した場合、各新株予約権者に割り当てられた新株予約権のうち、それぞれ定められた割合の個数を当該経常利益の水準を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月1日から権利行使期間の末日までに行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に1個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- (a)平成28年5月期の経常利益が8億円を超過した場合  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の2分の1
- (b)平成29年5月期の経常利益が12億円を超過した場合  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の2分の1
- (2)上記(1)における経常利益の判定において、適用される会計基準の変更等により参照すべき経常利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標を取締役ににて定めるものとする。
- (3)本新株予約権者は、上記(1)の条件が満たされた場合に、本新株予約権を、次の各号に掲げる期間において、既に行使した本新株予約権を含めて当該各号に掲げる割合を限度として行使することができる。この場合において、かかる割合に基づき算出される行使可能な本新株予約権の個数につき1個未満の端数が生ずる場合には、かかる端数を切り捨てた個数の本新株予約権についてのみ行使することができるものとする。
- (a)平成28年9月1日から平成29年8月31日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の4分の1
- (b)平成29年9月1日から平成30年8月31日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の2分の1
- (c)平成30年9月1日から平成31年8月31日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数の4分の3
- (d)平成31年9月1日から平成34年4月30日  
当該本新株予約権者が割当を受けた本新株予約権の総数のすべて
- (4)新株予約権者は、新株予約権の権利行使時においても、当社または当社関係会社の取締役、監査役または従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- (5)新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。
- (6)本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。
- (7)各本新株予約権1個未満の行使を行うことはできない。

## (2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成28年5月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

## ストック・オプションの数

	第2回ストック・オプション	第3回ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	180,000	283,800
付与	-	-
失効	-	9,200
権利確定	180,000	137,300
未確定残	-	137,300
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	-	-
権利確定	180,000	137,300
権利行使	175,000	-
失効	-	-
未行使残	5,000	137,300

## 単価情報

	第2回ストック・オプション	第3回ストック・オプション
権利行使価格 (円)	875	875
行使時平均株価 (円)	2,725	-
付与日における公正な評価単価 (円)	800	830

## 4. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与されたストック・オプション及び当連結会計年度の条件変更により公正な評価単価が変更されたストック・オプションがないため、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	45,188千円	131,498千円
未払事業税	27,282	47,988
投資有価証券評価損	5,688	5,399
投資事業組合運用損	2,289	2,154
関係会社株式評価損	9,666	-
ゴルフ会員権評価損	8,377	7,951
退職給付に係る負債	-	57,729
資産除去債務	2,792	76,255
時価評価による簿価修正額	33,992	31,528
繰越欠損金	332,066	291,691
その他	59,732	78,203
繰延税金資産小計	527,077	730,399
評価性引当額	460,267	406,839
繰延税金資産合計	66,809	323,560
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	85,063	94,121
その他	6,792	64,844
繰延税金負債合計	91,855	158,965
繰延税金資産(負債)の純額	25,046	164,594

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年5月31日)	当連結会計年度 (平成28年5月31日)
法定実効税率 (調整)	35.6%	33.0%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	0.3
関係会社株式売却による連結修正	5.3	-
のれん償却費	6.5	6.2
持分法による投資損益	0.9	0.7
段階取得に係る差益	-	15.2
評価性引当額の増減額	5.1	2.8
住民税均等割	2.5	1.1
税額控除	-	1.3
その他	1.9	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.8	21.3

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は前連結会計年度の32.2%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年6月1日から平成30年5月31日までのものは30.8%、平成30年6月1日以降のものについては、30.6%にそれぞれ変更されております。

なお、当連結会計年度において連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

名称 サクセスホールディングス株式会社

事業内容 株式会社サクセスアカデミーを主要事業会社とする純粋持株会社

名称 株式会社サクセスアカデミー

事業内容 認可保育園・東京都認証保育所の運営、病院・学校・企業内の保育施設の受託運営

## (2) 企業結合を行った理由

当社は、平成21年12月に市場外取引により三井物産株式会社から株式会社サクセスアカデミー（現サクセスホールディングス株式会社）の発行済株式総数の20.00%を取得し、持分法適用関連会社とし、業務・資本提携契約を締結いたしました。その後、市場内取引等により株式を追加取得した結果、平成26年12月10日時点で、当社はサクセスホールディングス株式会社の筆頭株主となり、所有割合は26.17%に至りました。そして、当社は、サクセスホールディングス株式会社の企業価値向上に尽力し、平成26年4月における東京証券取引所市場第一部への市場変更までを支援いたしました。加えて、保育士確保と業界知識・ノウハウの共有のため、サクセスホールディングス株式会社から総合人材サービス事業を営む連結子会社であるジェイコム株式会社への人材招聘により、保育士の採用、求人企業とのマッチングを強化し、両社の連携体制を確立してまいりました。

しかしながら、昨今の深刻な保育士不足により、人材の確保が両社の重大な経営課題となった結果、当社といたしましては、サクセスホールディングス株式会社を連結子会社とすることにより、保育業界向け人材サービスに必要な求人企業と求職者をマッチングするための業界知識・ノウハウを、被取得会社と同じレベルで保有・蓄積し、また、被取得会社から必要な知識を十分に備える人材を招聘することが従前よりも容易になるというシナジー効果が見込まれ、他方で、サクセスホールディングス株式会社としては、当社の連結子会社となることにより、保育士を確保するために必要な求人・採用ノウハウを人材サービス企業と同じ高いレベルで得ることができ、採用人数の増加と採用コストの圧縮が可能になるというシナジー効果を見込んでおります。

## (3) 企業結合日

平成27年7月3日

## (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

## (5) 結合後の企業の名称

結合後の企業名称の変更はありません。

## (6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率 26.17%

企業結合日に追加取得した議決権比率 23.93%

取得後の議決権比率 50.10%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社がサクセスホールディングス株式会社の株式を公開買付けにより取得したためであります。

## 2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成27年7月1日から平成28年4月30日まで

## 3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に保有していたサクセスホールディングス株式会社の企業結合日における時価 2,331,380千円

企業結合日に取得したサクセスホールディングス株式会社の普通株式の時価 2,132,480

取得原価 4,463,860

## 4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 1,230,845千円

## 5. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 29,900千円



## 6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

## (1) 発生したのれん

3,416,158千円

## (2) 発生原因

主として、当社グループが株式会社サクセスアカデミーの事業拡大、サクセスホールディングス株式会社の企業価値の向上を図ることにより保育関連サービス事業を展開する際、総合人材サービスを利用することで、事業確立の早期化が図られる等のシナジー効果により期待される超過収益力であります。

## (3) 償却方法及び償却期間

8年間にわたる均等償却

## 7. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	2,484,628	千円
固定資産	5,321,422	
資産合計	7,806,050	
流動負債	2,007,995	
固定負債	3,669,362	
負債合計	5,677,358	

## 8. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

売上高	2,921,474千円
営業利益	100,581
経常利益	434,362
税金等調整前当期純利益	434,362
親会社株主に帰属する当期純利益	90,714
1株当たり当期純利益	9.89円

## (概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定し、サクセスホールディングス株式会社の平成27年4月から平成27年6月の連結財務諸表により算定された売上高及び損益情報と、取得企業の連結損益計算書における売上高及び損益情報との差額を、影響の概算額としております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

## (1) 当該資産除去債務の概要

介護施設、保育設備等の定期借地契約及び不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

## (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

主に使用見込期間を取得から15年から30年と見積り、割引率は0.37%から2.05%を用いて資産除去債務の金額を計算しております。

## (3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
期首残高	29,945千円	30,302千円
連結範囲変更に伴う増加額	-	182,457
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	33,279
時の経過による調整額	356	3,016
期末残高	30,302	249,055

(注) 金額的重要性が増したため、当連結会計年度より開示しております。

## (賃貸等不動産関係)

金額的に重要性がないため記載を省略しております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、提供するサービスの特性から、「総合人材サービス事業」、「保育関連サービス事業」及び「介護関連サービス事業」の3つを報告セグメントとしております。

「総合人材サービス事業」は、人材派遣サービス、アウトソーシングサービス、人材紹介サービス、採用・教育支援サービスを顧客企業に提供しております。

「保育関連サービス事業」は、サクセスホールディングス株式会社及び株式会社サクセスアカデミーが運営する大学・病院・企業内保育を受託運営する受託保育サービスと、認可・認証保育園、学童クラブ等を運営する公的保育サービスを提供しております。

「介護関連サービス事業」は、株式会社サンライズ・ヴィラが運営する介護施設において、入居者様に介護及び看護サービス等を提供しております。

なお、第1四半期連結会計期間より持分法適用関連会社であったサクセスホールディングス株式会社の株式を取得し、同社及び同社の連結子会社を当社の連結子会社としたことに伴い保育関連サービス事業に進出したため、報告セグメントを変更しております。

また、(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)に記載のとおり、当連結会計年度より同社及び同社の子会社の決算日を12月31日から4月30日に変更しております。この変更により、当連結会計年度は、平成27年7月1日から平成28年4月30日までの10ヶ月間を連結しております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失( )は、営業利益ベースの数値であります。

報告セグメント間の内部収益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当連結会計年度から「企業結合に関する会計基準」等を適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方によった場合に比べ、当連結会計年度の各報告セグメントに配分していない全社費用として、セグメント利益の調整額が14,000千円減少しております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成26年6月1日 至平成27年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	総合人材サー ビス事業	介護関連サー ビス事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	12,540,658	4,541,887	17,082,545	985,231	18,067,776	-	18,067,776
セグメント間の内部 売上高又は振替高	102,871	-	102,871	-	102,871	102,871	-
計	12,643,530	4,541,887	17,185,417	985,231	18,170,648	102,871	18,067,776
セグメント利益又は損 失( )	934,585	313,200	621,384	310,674	932,058	461,898	470,160
セグメント資産	3,478,416	2,617,606	6,096,022	242,186	6,338,209	2,940,698	9,278,908
セグメント負債	1,535,091	2,268,350	3,803,442	100,510	3,903,953	432,600	4,336,553
その他の項目							
減価償却費	16,556	62,376	78,932	4,977	83,909	9,789	93,699
のれん償却額	3,321	149,824	153,145	-	153,145	-	153,145
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	34,787	74,912	109,699	138	109,838	14,065	123,904

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、マルチメディアサービス事業であります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 461,898千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

セグメント資産の調整額2,940,698千円は全社資産で主なものは関係会社株式、のれん等であります。

セグメント負債の調整額432,600千円は全社負債で主なものは当社及び子会社の管理部門に係る負債であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自平成27年6月1日 至平成28年5月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務 諸表計上額 (注) 3
	総合人材 サービス事 業	保育関連 サービス事 業	介護関連 サービス事 業	計				
売上高								
外部顧客へ の売上高	15,621,292	10,542,954	4,956,531	31,120,778	723,913	31,844,692	-	31,844,692
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	168,529	-	-	168,529	-	168,529	168,529	-
計	15,789,821	10,542,954	4,956,531	31,289,307	723,913	32,013,221	168,529	31,844,692
セグメント利 益又は損失 ( )	1,630,654	153,920	64,381	1,720,193	35,911	1,756,105	608,358	1,147,747
セグメント資 産	3,923,434	13,566,734	2,572,876	20,063,044	192,155	20,255,200	1,778,810	22,034,011
セグメント負 債	1,500,735	8,899,630	2,400,953	12,801,320	87,730	12,889,050	1,204,546	14,093,597
その他の項目								
減価償却費	21,766	366,323	67,125	455,215	4,911	460,127	10,425	470,553
のれん償却 額	3,321	355,849	140,216	499,387	-	499,387	-	499,387
有形固定資 産及び無形 固定資産の 増加額	35,786	1,016,034	31,888	1,083,709	4,800	1,088,509	583	1,089,092

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、マルチメディアサービス事業等であります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 608,358千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

セグメント資産の調整額1,778,810千円は全社資産で投資有価証券等であります。

セグメント負債の調整額1,204,546千円は全社負債で主なものは当社及び子会社の管理部門に係る負債であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

###### (2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報として同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

## (2) 有形固定資産

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成26年6月1日 至平成27年5月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成27年6月1日 至平成28年5月31日）

（単位：千円）

	総合人材 サービス事業	保育関連 サービス事業	介護関連 サービス事業	計	その他	全社・消去	合計
当期末残高	-	-	7,153	7,153	-	-	7,153

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

（単位：千円）

	総合人材 サービス事業	介護関連 サービス事業	計	その他	全社・消去	合計
当期末残高	10,793	505,757	516,550	-	-	516,550

（注）のれん償却額に関しては、セグメント情報として同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

（単位：千円）

	総合人材 サービス事業	保育関連 サービス事業	介護関連 サービス事業	計	その他	全社・消去	合計
当期末残高	7,472	3,060,308	365,540	3,433,321	-	-	3,433,321

（注）のれん償却額に関しては、セグメント情報として同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

## 1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主	(有)マナックス	奈良県大和高田市	3,000	投資業	(被所有) 直接 8.6	有価証券の保有、運用及び投資	建設協力金の返還 不動産賃借料の支払	2,887 15,228	長期貸付金	52,696

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 価格その他の取引条件は、市場価格を参考に決定しております。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
主要株主	(有)マナックス	奈良県大和高田市	3,000	投資業	(被所有) 直接 9.0	有価証券の保有、運用及び投資	建設協力金の返還 不動産賃借料の支払	2,887 15,228	長期貸付金	49,809

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 価格その他の取引条件は、市場価格を参考に決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成27年6月1日 至平成28年5月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	岡本 泰彦	当社代表取締役社長	(被所有) 直接 37.4	当社代表取締役社長	ストックオプションの行使	140,000	-	-

(注) 平成27年4月1日開催の取締役会の決議に基づき発行したストックオプションの当連結会計年度における権利行使を記載しております。

なお、「取引金額」欄は、当連結会計年度におけるストックオプションの権利行使による付与株式数に払込金額を乗じた金額を記載しております。

連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と役員及び近親者

前連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)

該当事項はありません。

## 2. 重要な関連会社に関する注記

## 重要な関連会社の要約財務情報

前連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

重要な関連会社はサクセスホールディングス株式会社であり、その要約連結財務諸表は以下のとおりであります。

流動資産合計	2,507,154千円
固定資産合計	5,229,995
流動負債合計	2,114,523
固定負債合計	3,697,301
純資産合計	1,925,325
売上高	10,496,488
税金等調整前当期純利益金額	659,892
親会社株主に帰属する当期純利益金額	385,146

当連結会計年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
1株当たり純資産額	537.79円	718.70円
1株当たり当期純利益金額	36.13円	203.56円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	36.12円	199.02円

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
(1) 1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (千円)	331,256	1,871,295
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純 利益金額(千円)	331,256	1,871,295
期中平均株式数(株)	9,168,935	9,192,883
(2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	3,224	209,889
(うち新株予約権(株))	(3,224)	(209,889)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1 株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった 潜在株式の概要		

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、企業結合に関する会計基準等を適用し、当該会計基準等に定める経過的な取扱いに従っております。

この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額はそれぞれ、1.50円、1.52円及び1.49円減少しております。

## ( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。



## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	800,000	0.1	-
1年以内に返済予定の長期借入金	12,000	1,219,611	0.7	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	29,983	2.0	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	871,464	5,632,356	0.6	平成29年～37年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	575,371	2.1	平成29年～52年
合計	883,464	8,257,322	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金等残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,890,947	826,308	615,980	604,612
リース債務	30,601	31,232	31,876	32,533

## 【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	5,165,318	13,330,112	21,749,192	31,844,692
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	1,572,683	1,659,971	1,931,790	2,671,071
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	1,459,300	1,496,376	1,590,766	1,871,295
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	159.16	163.20	173.50	203.56

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	159.16	4.04	10.29	30.52

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	486,145	401,783
売掛金	-	2 16,200
有価証券	-	100,185
前払費用	25,625	31,638
繰延税金資産	9,024	5,905
短期貸付金	2 88,000	2 160,000
立替金	2 23,896	2 26,559
その他	2 20,243	41,150
貸倒引当金	2	1
流動資産合計	652,934	783,421
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
<b>建物</b>		
減価償却累計額	40,560	47,291
建物(純額)	56,328	69,087
<b>構築物</b>		
減価償却累計額	143	143
構築物(純額)	-	-
<b>車両運搬具</b>		
減価償却累計額	18,473	22,197
車両運搬具(純額)	14,308	10,598
<b>工具、器具及び備品</b>		
減価償却累計額	47,649	46,547
工具、器具及び備品(純額)	9,641	11,861
有形固定資産合計	80,278	91,548
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	50,288	40,777
その他	270	270
無形固定資産合計	50,558	41,047
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,145,118	978,800
関係会社株式	1,045,481	1 3,207,861
関係会社出資金	993,881	965,072
関係会社社債	-	2 1,000,000
長期貸付金	2 750,000	2 639,809
差入保証金	168,244	183,380
会員権	30,407	30,407
保険積立金	47,443	51,039
その他	54,071	1,467
投資その他の資産合計	4,234,648	7,057,839
固定資産合計	4,365,486	7,190,436
資産合計	5,018,420	7,973,857

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	2 89,100	2 81,231
短期借入金	-	3 800,000
1年内返済予定の長期借入金	-	1 326,800
未払費用	1,102	1,478
未払法人税等	58,225	9,590
賞与引当金	7,608	10,032
その他	2 1,176	17,829
流動負債合計	157,212	1,246,963
固定負債		
長期借入金	870,000	1 2,446,800
繰延税金負債	82,734	91,918
固定負債合計	952,734	2,538,718
負債合計	1,109,946	3,785,682
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,360,285	1,437,547
資本剰余金		
資本準備金	1,529,885	1,607,147
資本剰余金合計	1,529,885	1,607,147
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,575,882	1,667,689
利益剰余金合計	1,575,882	1,667,689
自己株式	740,236	740,236
株主資本合計	3,725,817	3,972,148
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	178,861	213,707
評価・換算差額等合計	178,861	213,707
新株予約権	3,795	2,319
純資産合計	3,908,474	4,188,175
負債純資産合計	5,018,420	7,973,857

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
<b>営業収益</b>		
業務委託収入	1 215,940	1 380,220
経営指導料収入	1 60,200	1 78,800
設備利用料収入	1 105,720	1 126,081
受取配当金収入	1 133,000	1 263,387
営業収益合計	514,860	848,488
<b>営業費用</b>		
給与報酬手当	130,385	135,801
賞与引当金繰入額	7,608	10,032
採用教育費	10,873	14,020
旅費及び交通費	18,278	20,715
賃借料	45,319	53,142
支払報酬	30,233	36,847
減価償却費	31,171	37,058
雑費	18,612	22,682
その他	87,209	125,094
営業費用合計	379,692	455,394
営業利益	135,167	393,093
<b>営業外収益</b>		
受取利息	1 7,860	1 10,249
有価証券利息	9,820	2,381
受取配当金	53,826	1 38,986
投資事業組合運用益	214,923	-
その他	1,079	849
営業外収益合計	287,509	52,466
<b>営業外費用</b>		
支払利息	1,329	9,886
投資事業組合運用損	-	35,174
その他	255	73
営業外費用合計	1,585	45,133
経常利益	421,091	400,426
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	2 1,660	2 124
投資有価証券売却益	32,257	4,823
関係会社株式売却益	19,999	10,000
移転補償金	-	15,761
新株予約権戻入益	-	76
特別利益合計	53,917	30,786
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	3 3,664	3 2,313
投資有価証券売却損	2,877	-
本社移転費用	21,350	-
事務所移転費用	-	7,675
その他	1,095	-
特別損失合計	28,988	9,989
税引前当期純利益	446,021	421,222
法人税、住民税及び事業税	95,431	51,160
法人税等調整額	7,820	3,187
法人税等合計	87,610	54,348
当期純利益	358,410	366,874

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,360,285	1,529,885	1,529,885	1,492,540	1,492,540	740,236	3,642,474
当期変動額							
剰余金の配当				275,068	275,068		275,068
当期純利益				358,410	358,410		358,410
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	83,342	83,342	-	83,342
当期末残高	1,360,285	1,529,885	1,529,885	1,575,882	1,575,882	740,236	3,725,817

(単位：千円)

	評価・換算 差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	95,460	95,460	-	3,737,935
当期変動額				
剰余金の配当				275,068
当期純利益				358,410
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	83,400	83,400	3,795	87,195
当期変動額合計	83,400	83,400	3,795	170,538
当期末残高	178,861	178,861	3,795	3,908,474

当事業年度（自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計		
当期首残高	1,360,285	1,529,885	1,529,885	1,575,882	1,575,882	740,236	3,725,817
当期変動額							
新株の発行（新株予約権の行使）	77,262	77,262	77,262				154,525
剰余金の配当				275,068	275,068		275,068
当期純利益				366,874	366,874		366,874
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	77,262	77,262	77,262	91,806	91,806	-	246,331
当期末残高	1,437,547	1,607,147	1,607,147	1,667,689	1,667,689	740,236	3,972,148

(単位：千円)

	評価・換算 差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	178,861	178,861	3,795	3,908,474
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）				154,525
剰余金の配当				275,068
当期純利益				366,874
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	34,846	34,846	1,476	33,370
当期変動額合計	34,846	34,846	1,476	279,701
当期末残高	213,707	213,707	2,319	4,188,175

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備除く。)については、定額法、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	8年～37年
車両運搬具	5年～6年
工具、器具及び備品	3年～15年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えて、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度より適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当事業年度において財務諸表に与える影響は軽微であります。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

- 1 担保に供している資産及び担保に係る債務  
担保に供している資産

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
関係会社株式	- 千円	2,162,380千円
計	-	2,162,380

担保に係る債務

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
1年内返済予定の長期借入金	- 千円	268,800千円
長期借入金	-	1,634,800
計	-	1,903,600

- 2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
短期金銭債権	110,060千円	200,766千円
短期金銭債務	40,588	39,927
長期金銭債権	750,000	1,590,000

- 3 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
当座貸越極度額	2,100,000千円	2,800,000千円
借入実行残高	-	800,000
差引額	2,100,000	2,000,000

(損益計算書関係)

- 1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
営業取引による取引高	514,860千円	848,488千円
営業取引以外による取引高	7,665	30,623

- 2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)	当事業年度 (自 平成27年6月1日 至 平成28年5月31日)
車両運搬具	1,660千円	124千円



## 3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	当事業年度 (自 平成27年 6月 1日 至 平成28年 5月31日)
建物	3,201千円	1,693千円
工具、器具及び備品	462	620

(有価証券関係)

前事業年度(平成27年5月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
関連会社株式	884,557	1,638,823	754,265
合計	884,557	1,638,823	754,265

(注) 子会社株式(貸借対照表計上額160,924千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成28年5月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
子会社株式	3,046,937	3,445,049	398,111
合計	3,046,937	3,445,049	398,111

(注) 子会社株式の一部(貸借対照表計上額160,924千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	2,512千円	3,091千円
未払事業税	5,974	2,257
投資有価証券評価損	5,688	5,399
投資事業組合運用損	2,289	2,154
関係会社株式評価損	9,666	-
ゴルフ会員権評価損	8,377	7,951
その他	854	924
繰延税金資産小計	35,363	21,777
評価性引当額	24,048	13,650
繰延税金資産合計	11,314	8,126
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	85,023	94,140
繰延税金負債合計	85,023	94,140
繰延税金負債の純額	73,709	86,013

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年5月31日)	当事業年度 (平成28年5月31日)
法定実効税率	35.6%	33.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	0.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	12.4	18.8
住民税均等割	0.3	0.4
評価性引当額	4.5	2.4
その他	0.2	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	19.6	12.9

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は前事業年度の32.2%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年6月1日から平成30年5月31日までのものは30.8%、平成30年6月1日以降のものについては、30.6%にそれぞれ変更されております。

なお、当事業年度において財務諸表に与える影響は軽微であります。

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

## (資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	96,889	26,252	6,762	11,800	116,379	47,291
	構築物	143	-	-	-	143	143
	車両運搬具	32,781	1,721	1,706	5,391	32,796	22,197
	工具、器具及び備品	57,291	6,699	5,581	3,859	58,409	46,547
	計	187,105	34,673	14,050	21,051	207,728	116,180
無形固定資産	ソフトウェア	80,119	6,496	-	16,007	86,615	45,837
	その他	270	-	-	-	270	-
	計	80,389	6,496	-	16,007	86,885	45,837

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物 事務所移転による取得 26,252千円

車両運搬具 社用車の購入による取得 1,721千円

工具、器具及び備品 事務所移転による取得 5,056千円

ソフトウェア 自社求人システム等 6,496千円

2. 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

建物 事務所移転時の除却 6,762千円

3. 当期首残高及び当期末残高は、取得価額で記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	2	-	1	1
賞与引当金	7,608	10,032	7,608	10,032

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日 5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取手数料	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL <a href="http://www.jcm.co.jp">http://www.jcm.co.jp</a>
株主に対する特典	5月31日現在の株主名簿に記録された、当社株式100株(1単元)以上を保有されている株主様に対して次のとおり進呈 100株以上500株未満 クオカード1,000円分 500株以上 クオカード2,000円分 100株以上 神奈川県・東京都・埼玉県において有料老人ホームを運営する当社連結子会社株式会社サンライズ・ヴィラの運営する施設の入居金の割引券30万円分 (平成28年5月31日現在の株主名簿に記録された、当社株式100株(1単元)以上を保有されている株主様から適用)

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第22期）（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）平成27年8月28日近畿財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
平成27年8月28日近畿財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書  
（第23期第1四半期）（自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日）平成27年10月14日近畿財務局長に提出  
（第23期第2四半期）（自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日）平成28年1月14日近畿財務局長に提出  
（第23期第3四半期）（自 平成27年12月1日 至 平成28年2月29日）平成28年4月14日近畿財務局長に提出
- (4) 臨時報告書  
平成27年8月31日近畿財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年 8月29日

ジェイコムホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 松本 浩  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 安田 智則  
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているジェイコムホールディングス株式会社の平成27年6月1日から平成28年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ジェイコムホールディングス株式会社及び連結子会社の平成28年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ジェイコムホールディングス株式会社の平成28年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、ジェイコムホールディングス株式会社が平成28年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

( ) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . X B R L データは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成28年 8月29日

ジェイコムホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 松本 浩  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 安田 智則  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているジェイコムホールディングス株式会社の平成27年6月1日から平成28年5月31日までの第23期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ジェイコムホールディングス株式会社の平成28年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- ( ) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。